令和　4　年　前　期　授業評価報告書	氏名	玉島　健二

１．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

①「現代社会と女性」
　学科・コースの担当者及び事務局教務課等の協力のお陰で円滑な運営ができた。また、１５回の構成については、「ガイダンス」、「キャリア」、「人権」等のテーマを設定し、ほぼ予定通り実施できた。
②「長崎観光入門」
　令和３年度は新規開講の授業であり、手探り状態であった。学生の授業評価アンケートの自由記述欄に「結局何をしたいのかわからなかった」というコメントがあったため、令和４年度に活かしたい。

２．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

①「現代社会と女性」
　２年次対象の授業は残り４回で終了する。最終回は外部講師の都合により、予定を変更し、「女性活躍推進セミナー」とした。
②「初年次セミナー」
　１年生対象の授業で、通年で１５回を実施する。「ガイダンス」、「人権」、「キャリア」等の視点を入れながら、新たに「ＳＤＧｓ」、「学科横断的内容」を導入する。
③「長崎観光入門」
　前年度の反省を踏まえ、授業のねらいを理解させるとともに、可能な限りアクティブラーニング（自ら調べ、まとめる）的な構成とする。

３．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

①「現代社会と女性」
　残り４回を予定通り実施する。
②「初年次セミナー」
　初めての取組となるので、学科・コースの担当者と事前に打ち合わせを行い、実施する。「ＳＤＧｓを考える①」では、前半に講義、後半には学科・コース別に班別協議を行う予定である。
③「長崎観光入門」
　２年目であるので、前年度の反省を生かした授業構成とする。また、昨年度実施できなかった「長崎さるく体験」も実施したい。

４．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

①「現代社会と女性」
　予定通り実施した。学生の授業評価アンケート結果もほぼ前年度並みであった。
②「初年次セミナー」
　１５回のうち、７回実施した。うち学科横断的内容を２回、基礎学力確認を３回実施した。学生の評価は前年度の「現代社会と女性」の前期終了時点よりも高かった。
③「長崎観光入門」
　意欲に欠ける学生が数名いたが、それ以外の大多数の学生は真面目に取り組んでいた。授業評価アンケート結果も前年度よりやや高い満足度であった。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
現代社会と女性	21S	4.2	4.4	4.3	4.3	13.5分	4.4
長崎観光入門	21S	4.5	4.5	4.5	4.5	22.0分	4.6
現代社会と女性	21L	4.4	4.4	4.3	4.4	10.0分	4.4
長崎観光入門	21L	4.5	4.3	4.4	4.4	27.5分	4.5
現代社会と女性	21Y	4.4	4.3	4.3	4.4	15.9分	4.2
初年次セミナー	22S	4.3	4.4	4.4	4.6	33.6分	4.2
初年次セミナー	22L	4.8	4.9	4.7	4.8	24.3分	4.6
初年次セミナー	22Y	4.4	4.4	4.3	4.4	38.8分	4.3

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
現代社会と女性	21S	必修	23	78.0	5	21.7%	3	13.0%	10	43.5%	5	21.7%	0	0.0%	0	0.0%
長崎観光入門	21S	選択必修	16	75.0	0	0.0%	7	43.8%	1	6.3%	8	50.0%	0	0.0%	0	0.0%
現代社会と女性	21L	必修	24	85.1	6	25.0%	14	58.3%	3	12.5%	1	4.2%	0	0.0%	0	0.0%
長崎観光入門	21L	必修	24	84.2	5	20.8%	13	54.2%	5	20.8%	1	4.2%	0	0.0%	0	0.0%
現代社会と女性	21Y	必修	93	84.5	28	30.1%	49	52.7%	10	10.8%	5	5.4%	0	0.0%	0	0.0%

５．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

①アクティブラーニング
　「現代社会と女性」及び「初年次セミナー」は、受講者数、受講教室の関係でアクティブラーニング形式の授業はできなかった。なお、「初年次セミナー」の第９回では班別協議を実施する予定である。
　「長崎観光入門」は、前半は講義形式が中心であったが、後半には「長崎さるく体験」を行ったり、調べ学習を取り入れた。
②オフィスアワー
　オフィスアワーと呼べるかどうかはわからないが、欠席の多い学生や提出物の未提出者を呼び出し・指導した。

６．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

①「初年次セミナー」
　全体の１５回が終了した時点で、次年度に向けた検討を関係者で行いたい。
②「長崎観光入門」
　最後に「長崎のおすすめスポット」についてまとめてもらっているが、受講者が多く、発表の機会を設定できなっかた。次年度は１５回の構成を見直し、発表の機会を設けたい。

令和　4　年　前　期　授業評価報告書	氏名	太田　美代

１．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

〇全体的な満足度は、担当するほとんどの科目で4.0以上であったが、「栄養教育指導論実習１」のみ3.8だった。
〇栄養士実力認定試験における、「給食経営管理論」の正答率は５６．５％と目標の６５％に及ばなかった。全体的にも全国平均に届かなかったため、令和４年度は試験対策を視野に入れた学力強化策を実施する。
〇２年生は学習意欲が低い傾向にあり、成績評価もさらに厳しい。いかに興味をもたせ学生の主体的な学びを引き出すかが大きな課題である。

２．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

〇専門職としての基礎的な力を養うため、栄養士実力認定試験の短大平均を上回る者60％以上、及びＡ認定50％以上を目指す。
〇１年生の学習会を原則全員参加として実施し、２年生も定期的に過去問にあたることを通して学びに向かう姿勢をもたせる。

３．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

〇　１年生の授業ではスライドとワークシートを活用し、クイズやまとめで過去問にもあたらせて知識の定着を図る。またリアクションペーパーを使って個別対応を行い、学習への意欲を喚起する。
〇２年生は「チャレンジタイム」で修得度別グループを作って少人数指導を実施する。
〇学力に関してかなり心配な学生もいるので、教育サポートスタッフの運用に加え、きめ細かな対応で個別にも支援する。
〇実習炎症の授業において、グループや個人での自己評価、グループ同士の相互評価の場面をつくり、認め、励ますことを通して学びに向かう主体的な態度を育成する。

４．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

〇「給食経営管理論」は、リアクションペーパーを活用することで、個別の対応を丁寧にすることができた。学生の満足度も前年度4.0から4.5に上がった。今後は、記述内容が浅い学生に対する働きかけを工夫したい。
〇「栄養教育指導論実習Ⅱ」は、C評価者が多い。筆記試験の結果が良くなかったため、次年度は試験対策も考慮する。学内実習では、栄養指導実習を自信をもって実施することができた。
〇「給食経営管理論実習Ⅱ」の履修者の人数は少なかったが、意欲のある学生がほとんどだったため、十分な成果を挙げることができた。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
栄養教育指導論実習Ⅱ	21S	4.2	4.2	4.2	4.1	66.0分	4.1
給食経営管理論実習Ⅱ	21S	4.3	4.3	4.4	4.3	56.3分	4.6
学外実習総合演習	21S	4.2	4.2	4.3	4.2	76.7分	4.0
ゼミナール	21S	4.3	4.3	4.5	4.5	15.0分	4.5
子どもの食と栄養	21Y	4.3	4.4	4.3	4.3	36.1分	4.3
長崎食育学	22S	4.5	4.7	4.8	4.7	36.3分	4.3
給食経営管理論	22S	4.3	4.5	4.6	4.1	49.2分	4.5

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価 S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
栄養教育指導論実習Ⅱ	21S	選択	23	69.1	0	0.0%	4	17.4%	8	34.8%	11	47.8%	0	0.0%	0	0.0%
給食経営管理論実習Ⅱ	21S	選択	9	85.0	3	33.3%	3	33.3%	3	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
長崎食育学	22S	必修	25	85.0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
給食経営管理論	22S	必修	25	79.4	8	32.0%	5	20.0%	4	16.0%	8	32.0%	0	0.0%	0	0.0%

５．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況
・実習系の科目については、計画的に実施することができた。講義を中心とする「給食経営管理論」についても「大量調理施設衛生管理マニュアル」に関する部分で一部学生に説明させる場面を作り、主体的に学習に臨む姿勢を促した。 ・実習の最後にKJ法を応用して、すべての学生が自ら「何を学んだか」「どんなことが身についたか」を考える機会を設けた。グループでまとめて発表することで、反省点や授業の成果を共有することができた。 ・定期試験で苦慮する学生には、個別に指導対応を行った。
６．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）
・「給食経営管理論」については、内容を整理して余裕をもって授業を実施できるようにしたい。 ・実習系の科目については、現行の方針を継続しつつ、提出物の作成に苦慮する学生に対して、個別に対応する。

令和　4　年　前　期　授業評価報告書	氏名	桑原　真美

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

令和3年度の食品衛生学、食品学基礎実験の学生アンケートにおける理解度(4.2、4.0)、満足度(4.3、4.2)は令和2年度と比較してやや上昇したが大きな変化はみられなかった。公衆衛生学については他の科目と比較して全体的に学生からの評価は低い傾向にあった。特にビジネス医療秘書コースの学生においては内容やレベルが4.0、理解度が3.7、満足度が3.9と低い値を示している。一方、一緒に授業を受けた栄養士コースの学生の評価では内容やレベルが4.3、理解度が4.0、満足度は4.2であった。内容とレベルのの見直しが今後の課題であり、それによってその他の評価も上昇すると考えられる。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

今年度は公衆衛生学の担当ではないため、食品学基礎実験、食品衛生学、栄養学Ⅰ(基礎栄養学)の3科目について改善を行う。
特に令和3年度の食品衛生学は学生の意欲と理解度がどちらも4.0というやや低い評価であったため、授業の進め方や内容の改善を実施する。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

講義科目は例年通りパワーポイントスライドを用いた授業とし、授業の最後に復習のための確認問題を実施・解説、出席カード代わりの質問用紙を配布し学生からの質問を毎回受け付けた。今年度は授業を進める速度をややゆっくりとし、学生が余裕をもって学習できるようにした。
食品学基礎実験については、グループ別の活動としているが、今年度はは学生の協調性、積極性を養うことを目的として、毎回グループ替えを実施した。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

今年度の授業評価アンケートは昨年度と比較して全体的に良い評価となった。授業外学習時間も前年度より増加している。食品衛生学と栄養学Ⅰの成績(平均点)もやや上昇しており、S評価、Ａ評価の学生の割合が多くなっていることが要因であると考えられる。食品学基礎実験に関しては、レポート点と出席点が成績の7割を占めており、今年度はレポートを期限までに提出しない学生や、レポートの内容に改善すべき点が多くある学生、欠席の多い学生も見られたため、平均点が低くなったと考えられる。今年度の授業評価アンケートが改善された要因としてもう一つ考えられるのが、スタートアップセミナーの実施である。スタートアップセミナーは基礎学力の向上と学習習慣の定着を目的として実施している。基礎学力の向上は半期では難しい課題であったが、日頃から学習に対して意欲をもって取り組む学生が増えたという結果がこの授業評価アンケートに表れていると考えられる。食品学基礎実験のグループ替えについては、授業評価アンケートにて固定がいいという意見をもつ学生が1名いたが、多くの学生は好意的な意見を持っていた。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
学外実習総合演習	21S	4.2	4.2	4.3	4.2	76.7分	4.0
ゼミナール	21S	4.6	5.0	4.8	4.8	66.0分	4.6
長崎食育学	22S	4.5	4.7	4.8	4.7	36.3分	4.3
食品学基礎実験	22S	4.5	4.7	4.6	4.5	101.3分	4.5
食品衛生学	22S	4.5	4.8	4.8	4.6	54.0分	4.6
栄養学Ⅰ（基礎栄養学）	22S	4.4	4.6	4.5	4.4	58.8分	4.6

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
長崎食育学	22S	必修	25	79.4	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
食品学基礎実験	22S	選択	25	80.2	7	28.0%	7	28.0%	5	20.0%	6	24.0%	0	0.0%	0	0.0%
食品衛生学	22S	必修	25	79.4	9	36.0%	3	12.0%	5	20.0%	8	32.0%	0	0.0%	0	0.0%
栄養学Ⅰ（基礎栄養学）	22S	必修	25	74.2	6	23.1%	5	19.2%	3	11.5%	11	42.3%	1	3.8%	0	0.0%

５．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況
講義科目においては、自身の理解度の振り返りを目的として復習問題を実施している。また、質問用紙を毎回配布し記入させることで積極的に授業に参加するよう促している。 オフィスアワーは実施しているが、その時間に学生が質問に来ることはなかった。
６．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）
今年度は全体的に授業評価アンケート結果が改善された。次年度も今年度の取り組みを引き続き実施していきたい。

令和　4　年　前　期　授業評価報告書	氏名	桑原　倫子

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

調理学…授業のペース配分については、前年度よりも改善していた。配布資料とスライドの改良も、学生の理解度上昇に貢献していたので、引き続き改良を行う。
調理学実習Ⅰ…丁寧な示範や基礎的な指導を満遍なく行ったので、高度な調理技術習得はできないものの、学年全体の基礎的技術習得に繋がった。
子どもの食と栄養…前年度よりもポイントを絞って授業を行ったつもり（保育士試験出題程度の基礎的レベル）であったが、学生からは内容が高度過ぎる等の声が上がった。また、私自身が無意識のうちについていた溜息　についての指摘もあり、これは大いに反省している。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

調理学…引き続き資料やスライド、必要ならば動画等も用い、ポイントを絞った理解度の高い授業を行う。
調理学実習Ⅰ…基礎的技術習得のため、遅れている学生には積極的に関わり、きめ細やかな授業を行う。
子どもの食と栄養…まずは自己管理を見直し、万全の体調で授業に臨む。授業回数の削減（30回→15回）が検討されているので、回数に応じた簡素化を行う。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

調理学…資料やスライドの内容を強化した。また、講義と実習の関連づけを意識し、学生の理解度をより深められる授業を行った。
調理学実習…示範を丁寧に行い、それでも遅れている学生には、積極的に声掛けや指導を行った。
子どもの食と栄養…授業内容を見直し、よりポイントを絞ったものにした。また、配布資料やスライドを視覚的に理解できるよう強化した。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

調理学…資料やスライドを強化した点や実習との関連づけは、学生の理解度深化に繋がったと考える。
調理学実習…アンケートの結果からも、丁寧な示範や指導は学生の基礎的調理技術の習得に繋がった。
子どもの食と栄養…資料の強化や動画の利用等は、内容理解に役立った。アンケート結果からは、普段行わない調理実習についての意見が多く、興味を持った学生が多いことが分かった。このことから、講義内容と実習の関連づけをより意識することで、理解度深化に効果があると考える。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
学外実習総合演習	21S	4.2	4.2	4.3	4.2	76.7分	4.0
ゼミナール	21S	4.7	4.7	4.7	4.7	20.0分	4.5
子どもの食と栄養	21Y	4.3	4.4	4.3	4.3	36.1分	4.3
長崎食育学	22S	4.5	4.7	4.8	4.7	36.3分	4.3
調理学	22S	4.5	4.7	4.6	4.5	32.5分	4.7
調理学実習Ⅰ（調理実験を含む）	22S	4.5	4.9	4.8	4.8	35.0分	4.8

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
長崎食育学	22S	必修	25	74.2	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
調理学	22S	必修	25	77.8	4	16.0%	9	36.0%	6	24.0%	6	24.0%	0	0.0%	0	0.0%
調理学実習Ⅰ（調理実験を含む）	22S	必修	25	82.6	2	8.0%	17	68.0%	5	20.0%	1	4.0%	0	0.0%	0	0.0%

５．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況
スライドや、手元が写るモニターを活用し授業を行った。 講義(調理学)と実践(調理学実習)が繋がるように、関連付けを意識し授業を行った。 オフィスアワーの実施状況については、試験前に質問に訪れる学生があったので、その都度対応した。
６．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）
調理学…資料の強化は引き続き行い、実習と関連性のある授業を行う。また、確認プリント(小テスト)なども用い、理解度を深める。 調理学実習…更に丁寧でかつポイントを絞った示範を行い、基礎的技術を習得させる。 子どもの食と栄養…今年度程度の内容で授業を行い、動画等も多用し理解度強化に努める。調理実習も行い、講義内容との関連づけを意識する。

令和　4　年　前　期　授業評価報告書	氏名	古賀　克彦

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

①　成績下位グループを底上げし、再試験受験者の減少。（栄養教育指導論Ⅰ）
②　成績下位グループを底上げし、再試験受験者の減少。（臨床栄養学Ⅱ）
③　献立展開を苦手とする学生を減らす（ゼロを目指す）（臨床栄養学実習）
④　実習先評価の向上。学内実施の場合は内容の充実。（学外実習Ⅰ）
⑤　一部授業内容の見直し（講師の変更等を含めて）（長崎食育学）

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

①　栄養指導に必要な基本的事項の修得を目指す（栄養教育指導論Ⅰ）
②　各種疾患の概要とその食事療法について理解することを目指す（臨床栄養学Ⅱ）
③　各種治療食の調理方法の修得とすると同時に、献立展開の技術習得を目指す（臨床栄養学実習）
④　学外実習の円滑な実施を目指す（学外実習Ⅰ）
⑤　外部講師を多く招いて実施する長崎食育学の円滑な実施（長崎食育学）

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

①　授業の実施方法の変更、配布資料の大幅見直し、毎回抗議終了時に小テスト実施、栄養士実力認定試験過去問の解説導入。（栄養教育指導論Ⅰ）
②　授業の実施方法の変更、配布資料の大幅見直し、毎回抗議終了時に小テスト実施、栄養士実力認定試験過去問の解説導入。（臨床栄養学Ⅱ）
③　学生が苦手とする献立展開については同じ内容のレポートの繰り返し添削を実施（臨床栄養学実習）
④　学外実習の意義や目的を繰り返し説明した（学外実習Ⅰ）
⑤　調理実習の増加や外部講師の変更など授業内容の一部見直しを実施（長崎食育学）

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

①　昨年度と比較すると平均点は上昇し、再試験受験者は減少した。ただ学力に問題のある学生は一定数存在しており、これらの学生指導に苦慮した。（栄養教育指導論Ⅰ）
②　昨年度と比較すると平均点が低下した。今後は学習に取り組まない学生への指導が課題。（臨床栄養学Ⅱ）
③　今年度はレポート提出状況が悪い学生が多く存在した。レポートへ取り組む姿勢は個人差が存在。（臨床栄養学実習）
④　新型コロナウイルスの影響の為、学外での実習は中止し、学内での指導に変更した。（学外実習Ⅰ）
⑤　今年度は新型コロナウイルスの影響を受けた昨年度違い、計画通りに開講することが出来た。今年度から講師に加わった長崎県水産部に関しては学外でのイベント参加に繋がった（西九州新幹線開業イベント）。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
臨床栄養学Ⅱ（食事療法の原理）	21S	4.1	4.1	4.0	4.1	37.9分	4.1
臨床栄養学実習	21S	4.2	4.2	4.4	4.1	52.1分	4.0
学外実習総合演習	21S	4.2	4.2	4.3	4.2	76.7分	4.0
ゼミナール	21S	4.0	4.0	4.3	4.0	15.0分	4.0
長崎食育学	22S	4.5	4.7	4.8	4.7	36.3分	4.3
栄養教育指導論Ⅰ	22S	4.3	4.3	4.5	4.3	32.5分	4.3

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
臨床栄養学Ⅱ（食事療法の原理）	21S	選択	23	75.0	7	30.4%	3	13.0%	1	4.3%	12	52.2%	0	0.0%	0	0.0%
臨床栄養学実習	21S	選択	23	70.5	3	13.0%	5	21.7%	6	26.1%	8	34.8%	0	0.0%	1	4.3%
長崎食育学	22S	必修	25	70.5	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
栄養教育指導論Ⅰ	22S	必修	25	76.0	4	16.0%	9	36.0%	4	16.0%	8	32.0%	0	0.0%	0	0.0%

５．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況
アクティブラーニングは実習科目を除くと講義後の小テストの実施程度にとどまった。 臨床栄養学実習に関しては来年度から献立の展開に関する部分のアクティブラーニングを取り入れていきたい。 オフィスアワーに関してはゼミ生以外の利用は無かった。
６．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）
①　成績下位グループを底上げし、再試験受験者の減少。（栄養教育指導論Ⅰ） ②　成績下位グループを底上げし、再試験受験者の減少。（臨床栄養学Ⅱ） ③　アクティブラーニングの導入、レポート提出状況改善（臨床栄養学実習） ④　実習先評価の向上。学内実施の場合は内容の充実。（学外実習Ⅰ） ⑤　一部授業内容の見直し（講師の変更等を含めて）（長崎食育学）

令和　4　年　前　期　授業評価報告書	氏名	江頭　万里子

１．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

（１）秘書実務２では、総合演習に意欲的に取り組んでいる様子が見られたが、もう少し時間が欲しかったとのコメントがあったので、実施方法の検討が必要である。
（２）秘書概論は、学生アンケートの４項目で昨年より高くなっていた。特に「教員の教え方」は4.2点から4.7点へ上がっており、声掛けの効果と考えられる。但し、声掛けの目的は学生の学習意欲の向上だったが、「学生の学習意欲」は4.3点で昨年と変わらなかった。学習意欲を上げる方法の再検討が必要である。
（３）マナー学では、次の時間の資料を前の授業時に渡し、予習の上、簡単な問に応えるように指示していたが、学外学習時間0の学生が昨年度の3人から8人増加し、11人、C評価の学生が1人から9人増加し10人という結果だった。授業資料と授業法の検討が必要である。

２．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

(1)秘書実務２では、授業内容の定着と十分な演習の時間を確保するために、反転授業を実施する。
(2)秘書概論では秘書業務の理解を深めるために、秘書検定の問題を活用する。
(3)マナー学では、授業内容を深く考え、日常生活に生かせるように予習資料とリアクションペーパーを利用する。

３．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

(1)秘書実務２では、電話応対応用の演習時に反転授業を行い、昨年度より長い演習の時間を確保した。

(2)秘書概論では、秘書業務の理解を深めるために、秘書検定の問題を活用し、具体的な事例を解説した。

(3)マナー学では、授業資料、課題とリアクションペーペーがセットになったシートによって、予習、振り返りを行わせた。リアクションペーパーの書き方を指定し、振り返りをしやすくした。また、リアクションペーパーに書かれた質問には、コメントを書いて返却するか、授業時にクラス全体に対して回答した。

４．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

学生アンケートの全ての項目が、4.4以上であることから、概ね問題は無かったと考える。
(1)秘書実務２では、事前学習の動画を複数回視聴し、対面授業前に自主的に演習を重ねた学生もおり、反転授業が主体的な学びに繋がったものと思われる。今期は、１回のみの実施だったので、今後は回数を増やすことも検討が必要。学生アンケートは、教員の教え方、学生の学習意欲、学生の理解度のポイントが昨年度より上がっていた。
(2)秘書概論では、教員の教え方、全体的は満足度が共に4.9と高得点であった。
(3)マナー学では、学生アンケートの結果が、前年度の結果に対して項目別に0.4～0.7上がっており、５項目の平均が4.58となった。成績評価ではC評価が2人で、昨年から8人減少した。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
秘書実務２	21L	4.6	4.7	4.5	4.5	53.8分	4.5
キャリアアップセミナー２	21L	4.6	4.6	4.7	4.7	25.7分	4.5
ゼミナール	21L	4.6	4.6	4.7	4.7	68.2分	4.5
マナー学	22S	4.5	4.7	4.7	4.6	23.1分	4.4
秘書概論	22L	4.8	4.9	4.4	4.4	96.0分	4.9
キャリアアップセミナー１	22L	4.8	4.8	5.0	4.8	58.5分	4.8
プレゼミナール	22L	4.9	4.8	4.9	4.8	99.0分	4.8

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
秘書実務２	21L	必修	24	82.4	5	20.8%	12	50.0%	6	25.0%	1	4.2%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール	21L	必修	24	87.8	13	54.2%	8	33.3%	3	12.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
マナー学	22S	必修	25	81.2	6	24.0%	9	36.0%	8	32.0%	2	8.0%	0	0.0%	0	0.0%
秘書概論	22L	必修	20	84.4	9	45.0%	6	30.0%	2	10.0%	3	15.0%	0	0.0%	0	0.0%
プレゼミナール	22L	必修	20	83.5	11	55.0%	3	15.0%	3	15.0%	3	15.0%	0	0.0%	0	0.0%

５．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

反転授業、ロールプレイング、ディスカッション等を用いたアクティブラーニングを授業の内容に応じて行った。
基本的に在室時は対応可としているので、オフィスアワーには関係なく訪問があった。内容は、就職に関する相談、検定対策が中心であった。

６．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

目標：学生が主体的に授業に参加する

改善計画：授業内容に合わせ、可能な限り、アクティブラーニングを実施する。

令和　4　年　前　期　授業評価報告書	氏名	濵口　なぎさ

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

・学生による授業評価アンケートの結果から、全ての科目で内容やレベル、教員の教え方に問題はなかったと言えるが、より良い授業を行うための努力は続けて行きたい。
・ビジネス文書作成1でのタッチタイピング練習カードは、学生の習熟度を可視化するために効果的であり、達成感や自信を持つことにつながった。
・医療管理学では、一方的な授業内容になってしまうことがあった。授業内容と方法を見直し、理解度を確認するためのまとめのプリントなどを活用したい。
・複数の演習科目で課題を出したが、チェックに手間取り、時期に合わせた効果的なフィードバックができないことがあった。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

・講義科目は、学生の理解度を確認しながら一方的な授業にならないように努める。
・演習科目は、課題のチェックをこまめに行い、個別指導と全体指導のバランスを取りながら、個々の学生の習熟度アップを図る。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

・ビジネス文書作成1のタッチタイピングの練習は5月中旬に終了することを目標とし、ビジネス文書作成の基礎的な知識と技能の習得に十分な時間をかける。
・ビジネス文書作成3は、日商PC検定の受験を目標としつつ、ビジネスの場で応用できる知識の技能の習得を図る。
・情報処理演習は、栄養士コースで必要とされる知識や技能の習得を目指し、実践的な教材になるよう工夫する。
・医療管理学は理解度を確認するためのまとめプリントを活用し、教員による一方的な授業にならないよう努める。
・学生が提出した課題のチェックをできるだけ早く行い、時期に合わせた効果的なフィードバックに努める。
・プレゼミナール、ゼミナール、キャリアアップセミナーでは、状況に合わせたきめ細かな指導を行うよう努める。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

・ビジネス文書作成1のタッチタイピングの練習は全員が5月20日までに終了し、目標を達成した。ビジネス文書作成の基礎的な知識と技能の習得のためにきめ細かな指導を行うことができた。
・ビジネス文書作成3は、日商PC検定の受験を目標としたことで受験につながった学生が8名いた。また、教材を見直し、ビジネスの場で応用できる内容を取り入れた。
・情報処理演習は、栄養士コースから提案された内容を元に、新しい教材を作成した。欠席した学生に対する指導が十分に行えない点があるため、助手にフォローを依頼した。
・医療管理学は単元ごとのまとめプリントを効果的に使用し、知識の定着を図った。医事コンピュータは履修者が4名だったこともあり、1人ずつきめ細やかな指導ができた。
学生によるアンケート結果や成績分布から、ほぼすべての科目において期待した学習成果が得られたことが確認できたが、アンケート結果から内容やレベルの評価が高すぎるように思われるため、指導内容が易しすぎないか次年度に向けて検討したい。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
ビジネス文書作成３	21L	4.8	4.8	4.7	4.6	41.7分	4.7
医事コンピュータ	21L	4.5	4.3	4.3	4.0	22.5分	4.5
キャリアアップセミナー2	21L	4.6	4.6	4.7	4.7	25.7分	4.5
ゼミナール	21L	4.6	4.6	4.7	4.7	68.2分	4.5
情報処理演習	22S	4.2	4.2	4.6	4.2	28.8分	4.2
ビジネス文書作成１	22L	4.9	5.0	4.8	4.5	51.0分	4.9
情報検索	22L	5.0	5.0	4.8	4.8	66.0分	5.0
医療管理学	22L	4.8	4.8	4.5	4.6	56.7分	4.7
キャリアアップセミナー1	22L	4.8	4.8	5.0	4.8	58.5分	4.8
プレゼミナール	22L	4.9	4.8	4.9	4.8	99.0分	4.8

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
ビジネス文書作成３	21L	必修	24	84.5	6	25.0%	13	54.2%	4	16.7%	1	4.2%	0	0.0%	0	0.0%
医事コンピュータ	21L	選択	4	93.3	2	50.0%	2	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール	21L	必修	24	87.8	13	54.2%	8	33.3%	3	12.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
情報処理演習	22S	必修	25	76.4	3	12.0%	7	28.0%	9	36.0%	6	24.0%	0	0.0%	0	0.0%
ビジネス文書作成１	22L	必修	20	83.3	4	20.0%	13	65.0%	3	15.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
情報検索	22L	必修	20	88.0	11	55.0%	8	40.0%	1	5.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
医療管理学	22L	選択	10	80.2	2	20.0%	5	50.0%	2	20.0%	1	10.0%	0	0.0%	0	0.0%
プレゼミナール	22L	必修	20	83.5	11	55.0%	3	15.0%	3	15.0%	3	15.0%	0	0.0%	0	0.0%

５．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

・プレゼミナール、ゼミナール、キャリアアップセミナーでは、グループディスカッションやプレゼンテーションを行った。
・情報検索では、昨年度に引き続き根拠となるデータを元にしたレポート作成を行ったのち、その概要を発表させた。要点を要領よくまとめて発表する経験として効果的だった。
・医療管理学では病院調査について個別発表を行った。
・オフィスアワー以外の空き時間で、欠席した学生のフォローや就活指導や面接練習、個人的な相談などに対応した。

６．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

・講義科目は、学生の理解度を確認しながら一方的な授業にならないように努め、できる限りアクティブラーニングの手法を取り入れた内容での実施を検討する。
・演習科目は、課題のチェックをこまめに行い、適宜フィードバックを行いながら、個別指導と全体指導のバランスを取りながら、個々の学生の習熟度アップを図る。

令和　4　年　前　期　授業評価報告書	氏名	武藤　玲路

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

1）前年度の臨床心理学とビジネスデータ活用１・３の授業では、学生の基礎学力や応用力、学習意欲に二極分化の傾向が見られたため、今年度も授業の構成や教材、教授法や課題、自由研究の方法を工夫し、個々の学生の学習意欲の促進に努めたい。
2）可能な限りアクティブラーニングの教授法を取り入れた授業を実施し、主体性や問題解決能力、人間関係力の育成に努めたい。
3）毎年学生が望んでいるような、わかりやすく、丁寧で、ためになる、楽しい授業の進行に努めたい。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

1）学生に質問をしたり、自由研究で発表をさせたりして、アクティブラーニングの教授法を取り入れるようにする。
2）授業中の学生の発言や態度をその場で学生にフィードバックし、学習意欲や問題解決能力の育成に努める。特に臨床心理学の授業の最後には、昨年同様、その日の授業で習った専門用語に連する活用事例や感想を記述させるようにする。
3）必要に応じて専門の外部講師の先生をお招きして、学生に専門的な立場から指導や助言をしていただく。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

1）今年度も臨床心理学では、授業の前半はテキストとオリジナルのプリント教材を用いてテーマに関する用語や理論を説明し、授業の後半では教材の動画を上映してテーマの理解を深める授業構成とした。また、教員の質問に対する学生の発言をボーナス点として成績評価に加点し、学生の能動的な学習意欲の促進を図った。さらに、授業の最後に毎回意見や感想のレポートを提出させたり、演習形式の授業や学生の研究発表も授業計画に取り入れたりした。
2）今年もビジネスデータ活用１・３では、授業の前半はテキストに沿ってエクセルの機能と操作方法を説明し、授業の後半では独力で練習問題に取り組む授業構成とした。また、定期試験の数週間前には、オリジナルの応用問題を出題することで、これまでの授業内容を総合的に理解し、正確さと迅速さと問題解決能力の育成に努めた。さらに、授業の最終回には自分の理解度や弱点のフィードバックを行い、学習意欲の促進を図った。
3）プレゼミナール、ゼミナール、キャリアアップセミナー１・２では、必要に応じて専門の外部講師の先生をお招きして、学生に専門的な立場から指導や助言をしていただいた。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

1）学生による授業評価アンケートの結果では、講義科目の臨床心理学と演習科目のビジネスデータ活用１と３、プレゼミナール、ゼミナール、キャリアアップセミナー１・２を含む全科目において、①内容やレベル、②教員の教え方、③学生の学習意欲、④学生の理解度、⑤全体的な満足度は、すべて4.5以上の高い評価であった。
2）授業担当教員による成績評価の結果では、臨床心理学が平均80.8点、ビジネスデータ活用１が82.0点、ビジネスデータ活用３が82.1点、プレゼミナールが80.5点、ゼミナールが87.8点とすべて80点以上の高い点数であった。また、Ｓ・Ａの上位の成績評価を示した割合は、臨床心理学が約7割、ビジネスデータ活用１が約7割、ビジネスデータ活用３が約6割、プレゼミナールが約7割、ゼミナールが約9割で、科目によって2極分化の傾向がみられた。今後は、反復練習を多く取り入れた課題や提出物を検討していく必要があると思う。
3）学生の授業評価アンケートの自由記述では、全科目とも好意的な評価の記述が多く、目標としていた、わかりやすく、丁寧で、ためになる、楽しい授業をある程度実現できたと思う。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
ビジネスデータ活用３	21L	4.5	4.5	4.7	4.6	75.0分	4.5
臨床心理学	21L	4.7	4.7	4.6	4.7	60.0分	4.6
キャリアアップセミナー2	21L	4.6	4.6	4.7	4.7	25.7分	4.5
ゼミナール	21L	4.6	4.6	4.7	4.7	68.2分	4.5
ビジネスデータ活用１	22L	4.6	4.6	4.6	4.5	55.5分	4.6
キャリアアップセミナー1	22L	4.8	4.8	5.0	4.8	58.5分	4.8
プレゼミナール	22L	4.9	4.8	4.9	4.8	99.0分	4.8

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
ビジネスデータ活用３	21L	必修	24	82.1	6	25.0%	8	33.3%	6	25.0%	4	16.7%	0	0.0%	0	0.0%
臨床心理学	21L	選択	22	80.8	4	18.2%	11	50.0%	5	22.7%	2	9.1%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール	21L	必修	24	87.8	13	54.2%	8	33.3%	3	12.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
ビジネスデータ活用１	22L	必修	20	85.7	11	55.0%	4	20.0%	1	5.0%	4	20.0%	0	0.0%	0	0.0%
プレゼミナール	22L	必修	20	83.5	11	55.0%	3	15.0%	3	15.0%	3	15.0%	0	0.0%	0	0.0%

５．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

１）アクティブラーニングの手法は前期のほぼ全授業で取り入れている。具体的には、グループディスカッションや自由研究のプレゼンテーションなどを実施している。
２）オフィスアワーに訪問する学生はいないが、それ以外の時間にパソコンの授業に関する質問が週に数件あるため、研究室のパソコンを用いて説明している。

６．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

１）すべての科目において、常に学生の満足度を重視した授業を心掛けたい。
２）成績がBとCの学生に対する教授法や声掛けを工夫して、学習意欲の高揚に努めたい。
３）できるだけアクティブラーニングの手法を取り入れ、必要に応じて専門の外部講師の先生をお招きして、学生が興味・関心を高める楽しい授業を開発していきたい。

令和　4　年　前　期　授業評価報告書	氏名	森　弘行

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

・情報リテラシーでは、内容量を減らしたにもかかわらず理解度2.8、満足度3.1と十分な成果が得られなかった。
・統計処理の理解度、満足度が低迷したまま。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

・統計処理、情報リテラシー、情報処理演習で、Google Classroomを活用し、授業の理解度の把握、質問などをしやすい環境にする。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

・統計処理、情報リテラシー、情報処理演習で、では、、Google Classroomによる復習問題、レポート提出を行った。
・統計処理の練習問題にいて授業内では解説にとどめ、授業外学習時間に行わせるものを増やした。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

・統計処理の授業外学習時間は予想に反して前年度の56分から34分に減少した。
・情報リテラシーではアンケートの評価が前年度より大きく改善された。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
統計処理	21L	2.8	3.1	3.3	2.4	33.8分	3.0
キャリアアップセミナー2	21L	4.6	4.6	4.7	4.7	25.7分	4.5
ゼミナール	21L	4.6	4.6	4.7	4.7	68.2分	4.5
情報処理演習	22S	4.2	4.2	4.6	4.2	28.8分	4.2
情報リテラシー	22L	4.4	4.5	4.6	4.2	48.0分	4.5
キャリアアップセミナー1	22L	4.8	4.8	5.0	4.8	58.5分	4.8
プレゼミナール	22L	4.9	4.8	4.9	4.8	99.0分	4.8

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
統計処理	21L	選択	16	64.6	0	0.0%	2	12.5%	0	0.0%	14	87.5%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール	21L	必修	24	87.8	13	54.2%	8	33.3%	3	12.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
情報処理演習	22S	必修	25	76.4	3	12.0%	7	28.0%	9	36.0%	6	24.0%	0	0.0%	0	0.0%
情報リテラシー	22L	必修	20	78.1	3	15.0%	7	35.0%	7	35.0%	3	15.0%	0	0.0%	0	0.0%
プレゼミナール	22L	必修	20	83.5	11	55.0%	3	15.0%	3	15.0%	3	15.0%	0	0.0%	0	0.0%

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

・オフィスアワーに訪問する学生はいないが、質問やPCトラブル等については随時対応。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

・統計処理の授業内容の大幅見直し。

令和　4　年　前　期　授業評価報告書	氏名	荒木　正平

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

1．今年度アンケートの結果については、遠隔授業の要領が（教員・学生とも）つかめてきたことや、資料の充実を図ったことなどにより、1年生の満足度が改善されているようである。2年生の演習系の授業への取り組みについては、コロナ対策をとりつつグループ演習の比重を昨年度より多めに実施した。だが結果として、学生グループ活動のやりづらさは残っており、今後さらに課題と成果を検討し授業改善を行っていきたい。ゼミナール活動の時間が半減したこともあり、指導が個々の学生との関わりになりがちであり、満足度も低下している。グループ活動としてのゼミの意義を学生が実感できるようなゼミ運営を心掛けたい。

2．実習との連動は当然ながら、就職後の実践も見据えて今後も実施していく。授業研究を進め、さらに学生が理解しやすく、実習に取り組みやすい授業を組み立てていくことが今後の課題となる。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

1．担当する授業の内容の充実と、学習成果の向上（対面授業の制限への対応も想定する）
　学習習慣の定着を図り、基礎的知識の定着を目指す。対面授業が大幅に制限される状況も想定し、今期成果が得られた個別演習の充実を図るとともに、学生の感染リスクを避けつつ、また過剰な負担にならない範囲での演習方法を活用した授業方法の検討を引き続き進める（オンデマンド、学内PCネットワークシステムの活用などを検討）。
2．実習指導体制の確認と内容の充実
　①実習指導授業の見直しと充実を中心にしながら、その他の授業においても、実習や保育現場での支援を意識した授業のあり方の工夫と、実習施設との密な連携（新型コロナ対応体制の確認も含む）、教員間の協力・情報共有体制の強化、を行う。
　②学生ごとに異なる能力・意欲に対応できるよう、徹底した個別支援・指導の実施を継続する。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

1．動画配信による遠隔授業が主であった前年度の授業形態を見直し、コロナ感染対応を行いながら対面授業を実施した。内容としては、教科書・レジュメでのまとめと確認による知識定着を行いつつ、テーマに関する映像資料も用いる形で実施した。なお、演習については、今期も制限を行いながらの実施となった。
2．授業と実習の関連については、関係教員と連携しながら教材の改善や授業内容の視覚化によるわかりやすさの改善等を心掛けて実施した。やはり演習についての制限は今後も継続することが見込まれる。学生毎の個別支援については引き続き徹底して行っている。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

1．今年度アンケートの結果のうち、ほぼ対面授業に戻すことができた科目については満足度がやや改善されているようである。新たに担当した2年生の演習系の授業についても、コロナ対策をとりつつのグループ演習を実施した。満足度といった点では大きな問題はないが、指導する側の印象として、学生グループ活動のやりづらさはやはり残っているようである。今後、個人演習の実施についてもバランスを見ながら取り入れていきたい。ゼミナール活動については、全体としては学生の意欲が高く取り組んでくれていたが、一部ミスマッチの学生の意欲・満足度が気になるところである。ゼミの意義を学生が実感できるような運営を引き続き心掛けたい。

2．実習・その他授業との連動を意識して取り組むことができた。前述したような視覚化の工夫をより進め、さらに学生が理解しやすい説明を心掛け、実習に集中して取り組める環境を準備していくことが今後も課題となる。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
特別な教育的ニーズの理解とその支援	21Y	4.4	4.5	4.4	4.4	37.2分	4.4
保育実習指導Ⅰ	21Y	4.4	4.4	4.4	4.4	38.8分	4.4
保育実習指導Ⅱ	21Y	4.4	4.3	4.4	4.4	35.9分	4.3
教育実習（事前・事後指導１単位含む）（幼）	21Y	4.4	4.4	4.4	4.4	51.7分	4.3
ゼミナール	21Y	4.8	4.9	4.8	4.6	90.0分	4.6
社会的養護Ⅰ	22Y	4.6	4.6	4.6	4.5	57.4分	4.5
保育実習指導Ⅰ	22Y	4.4	4.4	4.4	4.4	44.6分	4.3

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
社会的養護Ⅰ	22Y	選択	87	83.3	32	36.4%	26	29.5%	18	20.5%	12	13.6%	0	0.0%	0	0.0%

５．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

〈アクティブラーニングについて〉
今期については、コロナ対策を行いながらの対面授業を実施することができた（講義・演習とも）。結果として、学生の意欲的な取り組みと充実した学習成果を得ることができたと考える。今後の感染状況によっては、オンデマンドと組み合わせた授業についても必要となることが考えられるため、引き続き遠隔授業の実施体制は維持しつつ、より効果的なアクティブラーニング実施の在り方について模索したい。
〈オフィスアワーについて〉
効果的に活用できた。オフィスアワーをきっかけに学生が訪室しやすくなることで、よりスムーズな学生支援の実施につなげられた。

６．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

１．担当する授業の内容の充実と、学習成果の向上（状況に応じた授業形態の変更も想定する）
　学習習慣の定着を図り、基礎的知識の定着を目指す。今期実施できた対面授業が、また大幅に制限される状況も想定し、個別演習の充実を図る。学生の過剰な負担にならないよう工夫しながら、様々な演習方法を柔軟に採用し、充実した授業を実施する。
２．実習指導体制の確認と内容の充実
　①実習指導授業の見直し（保育実習Ⅲおよび保育実習指導Ⅲ）を進める。その他の授業においても、実習や保育現場での支援を意識した授業のあり方の工夫と、実習施設との密な連携（新型コロナ対応体制の確認も含む）、教員間の協力・情報共有体制の強化、を行う。
　②学生ごとに異なる能力・意欲・希望に対応できるよう、徹底した個別支援・指導の実施を継続する。

令和　4　年　前　期　授業評価報告書	氏名	織田　芳人

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

①保育方法論
来年度からICT活用を1単位、7.5回以上に増やす必要があるので、早急に内容を詰めていきたい。パソコンの簡単な活用を実際に体験してもらうことも検討したい。
②子どもと玩具
保育実習に活用できるような玩具を中心に授業を組むことを検討する。
③ゼミナール
保育に関わる研究報告だけでなく、実践報告も含める。
④情報科学
図表やイラストを増やす等、より分かりやすい授業資料の作成を検討する。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

①保育方法論
5回のうち4回をWordによる演習にあてる計画である。
②子どもと玩具
受講生が10名以上の場合は講義と演習を組み合わせて実施したい。受講生が少数の場合は個別に希望の玩具製作を実践させたい。
③ゼミナール
保育に関わる玩具の製作だけでなく実践報も含める。
④情報科学
イラストを増やし、穴埋めの量を減らした、より分かりやすい授業資料を作成する。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

①保育方法論（5週担当）
情報演習室での演習が4週可能だったので、AクラスとBクラスに分けて保育ドキュメンテーション（1週）、園だより（1週）、実習日誌様式（2週）の作成を実施した。残り1週は合同で、保育におけるICT活用（講義）を行った。保育ドキュメンテーションに使用する画像は、山中先生の造形関係の授業で模擬保育を行った際の記録画像を使用したので、支障なく準備できた。
②子どもと玩具
受講生が5名だったので、実習で使えるような各自の希望に沿った玩具製作を実践させた。
③ゼミナール
5名共同で障害児対象の玩具を製作するAグループと、5名が個別に自分のテーマで玩具製作を行うBグループに分かれた。Aグループは前期で4種類の玩具を製作したので、後期に同級生の意見・感想を聞く予定。Bグループは製作の進度に個人差が出てきている。
④情報科学
イラストを増やして、穴埋めの量を減らした授業資料を作成して、できるだけ分かりやすいように進めた。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

①保育方法論
実習先の園から、実習日誌や指導案の作成にパソコンを使わせないように大学が指導しているのかという質問が出始めているので、実習日誌の様式を作成させたことは意義があった。しかし、実際に実習で活かせるかというと、パソコンがない学生が多く、プリンタがない学生がほとんどという現状がある。
②子どもと玩具
本人の希望に沿った玩具製作を実践させたので、教育的には意義があったと考える。しかし全体的な満足度が低く、どのような対応が考えられるか検討が必要である。
③ゼミナール
Aグループは前期で製作をほとんど終えているので、後期は早々に玩具に関するアンケート調査等を行い、結果をまとめる。Bグループは原点に少し立ち戻って、どのようにまとめていくかを説明してから、製作を急がせる予定である。
④情報科学
授業評価アンケートで、全体的な満足度が4.0だったので、イラストを増やし穴埋めの量を減らした授業資料の効果はあったと思われる。ただし、時間を持て余す学生が増えたという印象があった一方で、授業評価アンケートに授業の進度が速すぎる、わからないという記述もあって、学生間でパソコン理解度の格差が年々広がっている感じがするので、今後の対応がより難しいと考えている。

学生による授業評価アンケートの結果							
科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
子どもと玩具	21Y	4.0	4.0	3.7	3.7	21.4分	3.6
保育方法論	21Y	4.4	4.4	4.3	4.3	30.4分	4.3
保育実習指導Ⅰ	21Y	4.4	4.4	4.4	4.4	38.8分	4.4
保育実習指導Ⅱ	21Y	4.4	4.3	4.4	4.4	35.9分	4.3
教育実習（事前・事後指導１単位含む）（幼）	21Y	4.4	4.4	4.4	4.4	51.7分	4.3
ゼミナール	21Y	4.3	4.3	4.4	4.3	33.8分	4.1
情報科学	22Y	4.0	3.9	4.2	4.1	30.0分	4.0
保育実習指導Ⅰ	22Y	4.4	4.4	4.4	4.4	44.6分	4.3

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
子どもと玩具	21Y	選択	9	46.0	1	11.1%	3	33.3%	1	11.1%	0	0.0%	0	0.0%	4	44.4%
保育方法論	21Y	選択	93	70.1	2	2.2%	15	16.1%	27	29.0%	49	52.7%	0	0.0%	0	0.0%
情報科学	22Y	必修	87	74.7	6	6.7%	21	23.6%	44	49.4%	17	19.1%	0	0.0%	0	0.0%

５．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

「保育方法論」の演習では、学生間で学び合いが自然発生的に行われていた。オフィスアワーを設定して掲示しているが、ほとんどの学生が各自の都合で予約なしに尋ねてくるというのが現状である。

６．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

①保育方法論
来年度からICT活用の回数を1単位分の8回とするので、PowerPointで保育ドキュメンテーションを作成する、Wordで実習日誌・保育指導案の様式を作成する、PowerPointでデジタル紙芝居を製作する、等を検討する。
②子どもと玩具
実習に活用できるような玩具製作を中心とするか、知育玩具に重点を置くか検討する。
③ゼミナール
保育に関わる研究報告だけでなく、実践報告も含める。
④情報科学
イラストを増やして、穴埋めの量を減らした授業資料を作成する。PowerPointでのキャラクター製作を加えるかについても検討する。

令和　4　年　前　期　授業評価報告書	氏名	髙橋　秀樹

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

前年度の課題は以下の通りである「課題に関しては、前年度からの引き継ぎ科目（通年）は、科目に関する学生の専門知識や能力の把握がしきれず授業を行う中で難しさがあったため、学生の専門知識や能力を事前に把握できるよう努める。また前期同様に学生が主体的に考え、学びを深めれる環境を整えていく。」

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

コロナ過により、一部の演習科目に制限がでたものの、出来る限り実践を行えるよう環境配慮し、保育学生の専門性が育つよう努める。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

コロナの感染者数の増加に伴い、鬼ごっこなどの身体接触が伴う幼児期の遊びなどに制限が出た。そのため、一部の身体遊びのイメージが具体化されなかったと考えられる。コロナの感染状況を把握しつつ、できる限り学生の学びが具体化できるよう努める。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

今年度の評価アンケートの結果では5点満点中、4.2～4.9の評価であった。前年度に比べ、総体的にやや評価が向上した傾向にあった。今後も引き続き学生の学びが深くなり、学ぶことが楽しくなるよう努める。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
運動遊びの実践（指導法）	21Y	4.3	4.2	4.4	4.4	20.9分	4.2
保育実習指導Ⅰ	21Y	4.4	4.4	4.4	4.4	38.8分	4.4
保育実習指導Ⅱ	21Y	4.4	4.3	4.4	4.4	35.9分	4.3
教育実習（事前・事後指導１単位含む）（幼）	21Y	4.4	4.4	4.4	4.4	51.7分	4.3
ゼミナール	21Y	4.9	4.9	4.9	4.9	34.3分	4.9
体育実技	22Y	4.7	4.7	4.8	4.8	9.9分	4.7
領域「健康」の指導法	22Y	4.6	4.6	4.5	4.5	68.0分	4.5
保育実習指導Ⅰ	22Y	4.4	4.4	4.4	4.4	44.6分	4.3

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
運動遊びの実践（指導法）	21Y	必修	93	79.6	3	3.2%	50	53.8%	32	34.4%	7	7.5%	1	1.1%	0	0.0%
体育実技	22Y	選択	87	84.2	22	24.7%	53	59.6%	12	13.5%	1	1.1%	0	0.0%	0	0.0%
領域「健康」の指導法	22Y	選択	57	73.3	5	8.3%	15	25.0%	18	30.0%	22	36.7%	0	0.0%	0	0.0%

５．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況
Google driveやformを活用し、ICT機器を通し多くの情報を収集・精査し、課題に取り組めるよう配慮した。またそれらの情報を学生自身がとりまとめ、発表し合い、その後ディスカッションにて内容を深められる環境を提供した。
６．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）
次年度は、今年度コロナの影響により実施することが出来なかった身体活動にICT機器を併用した活動を取り組み、学びが具体化し、子どもの発達や遊びのイメージが深まるよう行業計画する。

令和　4　年　前　期　授業評価報告書	氏名	大徳　朋子

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

学生の理解度に合わせて講義内容を修正しながら進めていく。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

プリント記入や各人でのワークの取り組み、グループでの話し合いといった主体的な講義への参加を促す。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

アンケート結果より、講義については一定の理解ができたのではないかと思われた。試験を実施した科目については上下の差がみられたが多くは真面目に学習された結果がみられた。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
領域「人間関係」の指導法	21Y	4.2	4.2	4.2	4.2	30.0分	4.2
教育相談（幼児のカウンセリング理論を含む）	21Y	4.3	4.3	4.2	4.3	25.2分	4.3
発達心理学	22Y	4.5	4.5	4.5	4.4	44.6分	4.4

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
領域「人間関係」の指導法	21Y	必修	93	80.9	17	18.3%	33	35.5%	39	41.9%	4	4.3%	0	0.0%	0	0.0%
教育相談（幼児のカウンセリング理論を含む）	21Y	選択	93	83.1	23	24.7%	39	41.9%	25	26.9%	6	6.5%	0	0.0%	0	0.0%
発達心理学	22Y	必修	87	82.8	25	28.1%	33	37.1%	19	21.3%	12	13.5%	0	0.0%	0	0.0%

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

実施なし

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

受動的な授業参加にならないように、考えることや話し合うといった場面を多くもうけることを意識したい。

令和　4　年　前　期　授業評価報告書	氏名	中澤　伸元

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

残念ながらコロナで先輩たちの生き生きと楽しんで演じている発表を生で見ていない為、
表現感覚、歌感覚、楽しんで身体で表現する壁にぶつかり、苦労したが、メンバーのやる気とチームワークで乗り越えることができた。
やはり、臨場感あふれる発表を生で見ているのといないのとでは、スタート時に大きな違いが生じる。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

この学年も先輩たちの発表を見ておらず、ミュージカルの知識、楽しみを感じていない学生達なので、基本的なセリフ表現、舞台上での動き、振付等の行動感覚に苦労している。早く感覚を掴んでいけるよう、基礎トレーニングを行っていく。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

今年度の台本はできたが、実習などいろいろな行事で学生の頭はいっぱいで集中力に欠けている。
実習が終わってから本格的にセリフ表現、振付等の練習をしていく。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

実習が終わってから本格的な指導に入っていく。
個々の才能を伸ばしながら全員でひとつのミュージカルを完成させていくことで、学生の意欲、満足度も上がっていくことと思われる。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
ゼミナール	21Y	3.6	3.4	4.3	3.6	41.3分	3.5
音楽演習	21Y	4.1	4.1	4.4	4.2	28.1分	4.0

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%

データがありません

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

ゼミナールの授業がすべてアクティブラーニングそのものであり、毎回課題を見つけ、皆で話し合いながら解決に結びつけている。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

すべて身体が答えを持っている感覚をしっかり身に着け、未来志向で現在に繋がる事のテクニックを徹底指導していく。

令和　4　年　前　期　授業評価報告書	氏名	中村　浩美

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

歌う事の喜びや楽しみを感じながら、実習を含めて子どもに必要な楽曲を知る。学生の個々の性格を早く把握しながらその学生に見合った指導も取り入れる。歌うために必要な体の使い方や表情を指導しながら、まだ知る事のなかった自分の声を発見する。歌への苦手意識を少しずつ克服しながら、人前で一人で歌う勇気を持てるための声掛けを細かに行う。仲間同士で少しでも達成した点を褒め合い、課題点においても発言し合えるようにする。コロナ過でマスク着用のままでの歌唱指導はかなり難しいが、マスク着用でも表情がわかる事への理解を、実際に鏡で見ながら改善する。改善しつつある表情を意識させながら、なおかつ体を使うために立って歌う授業を設ける。手遊び歌は子ども達が特に興味を持って楽しく取り組むためパフォーマンス授業を重んじる。また、歌詞と言う言葉を理解しイメージさせる取り組みを行う。音楽と言う実技によって子ども達のみならず、学生自身の感性を高める授業を常に重んじ心がける。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

・声を出す実技授業なので、教員も学生もマスクやフェイスシールドを着用して、練習室やレッスン室、音楽室、音楽あそび室など、音楽授業に関してのコロナ感染予防を第一に授業を行う。
・コロナ感染予防に当たり、練習室やレッスン室、音楽授業に使用する教室の使用方法と、学生自身が感染予防の意識を持って音楽エリアを使用するための指導を行う。
・ピアノ・声楽・伴奏法が隔週での授業になった事で、年間を通しての授業計画を綿密に立てて試みる。
・教員間の報連相を密に、学生の進度状況を理解しておく。
・マスク着用だからこそマスクの下に隠されている口角から表情筋を使って、笑顔で大きな口を開けてしっかり挨拶する習慣をつける指導をする。
・教員として学生が成長できるための能力や個性を持ち備えている事を常に意識し、指導をする。
・少しの成長や達成に対しても褒めながら分析・説明をする。
・保育者になるための高い意識を持たせること、やる気にさせるための指導方法の工夫をする。
・人の前にでることへの羞恥心を軽減できるための授業展開を行う。
・言葉や感情や場を考慮して指導する。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

・学生一人ひとりの個性を早く見極めて、その学生自身に見合った指導をする。
・やる気にさせる言葉や授業内容及び進め方の工夫をする。
・メンタル面強化の励みの言葉かけをする。
・演奏を苦痛に思わず、奏でられる事の喜びや楽しみを感じてもらうための言葉かけや配慮を行う。
・学生自身が自らの課題点や到達点を発見でき次のステップに生かせる助言と指導を行う。
・自信は勇気の積み重ねであり、失敗を恐れず一歩を踏み出すメンタル面からの勇気を促す。
・歌唱法のレッスンに於いては、ピアノレッスン以上に感染防止の策を考え、広い教室で、間隔とキョリを空けてマスク着脱で行った。喚起やアル　コール消毒、水分補給にも常に気を配りながら行う。
・自分の声、歌唱法のコンプレックスを解消するためのレッスンを行う。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

どの教科においても常に学生とのコミュニケーションを大切にしてきた。教員と学生間の距離を縮めながらお互いを知り、信頼関係を築く事で極度な緊張感を和らげるための関わり方をしたと思われる。しかしマスク着用のため学生の顔と名前が一致せぬまま進行する事が多く、ノートを見ながらの名前確認となってしまった。名前で呼ばれる方が学生も親しみを持つためマスク着用でも名前を覚えること。マスク着用のため声楽(歌唱法)の授業を行うのは大変難しく、後期も同様であるためマスク着用でも表情が明るく声も明るくなる指導を強化したい。また、いイメージ力が乏しくなっている昨今の学生に、歌詞読みを徹底させる事、その楽曲の物語を作って発表し言葉やイメージ力の大切さを感じ取る事を強化する必要性がある。思いを持って歌唱してもらうために、学生の受動性であはなく自らの発表を主体的にしながら指導する。2年生は特に実習を終えて就職活動を行い、来年の今頃は現職の先生になる事を意識させて、指示待ちではなく積極的に気付いて・動いて・元気な挨拶ができ言葉遣いを考えられるよう常に指導していた。その繰り返しの指導が実習に生きたと言う学生からの声を聞けた。まだ達していない学生には今後も継続する。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
保育実習指導Ⅰ	21Y	4.4	4.4	4.4	4.4	38.8分	4.4
保育実習指導Ⅱ	21Y	4.4	4.3	4.4	4.4	35.9分	4.3
教育実習（事前・事後指導１単位含む）（幼）	21Y	4.4	4.4	4.4	4.4	51.7分	4.3
ゼミナール	21Y	4.9	4.9	4.9	4.9	8.6分	4.9
音楽演習	21Y	4.1	4.1	4.4	4.2	28.1分	4.0
保育実習指導Ⅰ	22Y	4.4	4.4	4.4	4.4	44.6分	4.3

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%

データがありません

５．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況
ピアノ非常勤講師への不満と悩みがある学生の話を聞き、その後にピアノ担当教員がどんな意味があってレッスンをしているか、レッスンのみを基盤に説明した。しかし学生はレッスン内容と違って、ピアノ担当教員から受けたメンタル面を傷つけられた主張していた。音楽嫌い、保育者への希望が希薄になる事、休学を考えてしまう事を踏まえて、ピアノ担当教員にも学生に知られないよう伝えた。その事によって学生は改善されたと言うよりも見放された感覚が大きくなったと話され、授業内でのレッスンとは違って、少しでも気持ちが明るく音楽を好きと言う方向性ｇA見いだされるようレッスンをした。音楽を通じて心の悩みを打ち明ける学生を始め、音楽に関係なく悩みや不安を打ち明けて来る学生も多く、それぞれ抱えている悩みに時に教員として、時に人生の先輩として、心からの思いや考え、方法などを時間をかけながら相談にのっている。相談に来た学生も時間をかけて何度も面談をする事で心のつかえが取れたり、悩みを解決しようと言う前向きな考えを持つようになってきたり、悩みを克服したい一心がその学生の成長に繋がっていると感じている。今後も学生の悩みや相談には時間をかけてじっくり話を聞き、学生の悩みの負担を軽減でき成長できるための指導をしたい。
６．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）
・ピアノレッスンに関しての不安感が強い学生、自分の声や声の出し方にコンプレックスがある学生へのメンタル面の強化や、学生自身が各々の課題を知り克服できるための指導を強化したい。 ・マスク着用関係なく、みんなが笑顔でしっかりした声で挨拶ができるよう、褒める事も大切に指導していく。 ・学生一人ひとりの性格を早く把握し、各々の個性を大切に教員と学生間の信頼関係を構築しながら指導したい。 ・学生自身が自分の良さや課題点、好きな面、嫌いな面と、自分を知る事によっ今後の人生にどう繋がるかのディスカッションを設け、その機　教員も自身の人生経験を話しながら課題点を克服できるように、また良い点はさらに伸びるよう指導したい。

令和　4　年　前　期　授業評価報告書	氏名	南條　恵

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

授業の内容について、必要と思われる事項をすべて網羅しようとすると学生の理解が不十分であることが多かった。国家資格に基づく専門職として必要な知識、技能を身に付けるためにどのような授業の内容、方法がふさわしいのかを模索していきたい。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

分かりやすい資料を作成し、授業の理解が深まるようにする。
話し方、学生への問いかけの仕方などをその都度振り返り、工夫する。
リアクションペーパーを活用しながら、その日の授業の振り返りができるようにする。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

教科書を細分化したパワーポイントを作成し、適時解説を行っていった。また映像資料なども活用しながら、理解の定着に努める。
実際の保育現場でのエピソードなどを交えながら具体的な保育現場の様子がイメージできるようにする。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

学生の「わからない」にていねいに応えようと思い、授業の毎回ごとにリアクションペーパーを導入し、授業についての質問や感想を書いてもらった。しかし、質問の内容が授業のなかの話の聞き漏らしなど、基本的なことが多く授業の中身を深めるところまでにはいかなかった。今後は学生の理解に応じて、進度はゆっくり、また量的にも再考が必要であると考える。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
乳児保育Ⅱ	21Y	4.3	4.3	4.3	4.3	42.5分	4.3
保育実習指導Ⅰ	21Y	4.4	4.4	4.4	4.4	38.8分	4.4
保育実習指導Ⅱ	21Y	4.4	4.3	4.4	4.4	35.9分	4.3
教育実習（事前・事後指導１単位含む）（幼）	21Y	4.4	4.4	4.4	4.4	51.7分	4.3
ゼミナール	21Y	4.1	4.2	3.8	3.9	27.0分	3.9
子どもと健康	22Y	4.0	4.0	4.2	3.9	52.3分	3.9
子ども家庭福祉	22Y	4.1	3.9	4.3	3.9	56.2分	4.0
保育実習指導Ⅰ	22Y	4.4	4.4	4.4	4.4	44.6分	4.3

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
乳児保育Ⅱ	21Y	選択	93	80.1	7	7.5%	41	44.1%	42	45.2%	2	2.2%	1	1.1%	0	0.0%
子どもと健康	22Y	必修	87	69.6	3	3.4%	12	13.5%	24	27.0%	50	56.2%	0	0.0%	0	0.0%
子ども家庭福祉	22Y	選択	87	77.6	13	14.6%	29	32.6%	26	29.2%	21	23.6%	0	0.0%	0	0.0%

５．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況
オフィスアワーを利用して、質問等に来る学生はほとんどいなかった。グループワークを活用した授業を計画したが、新型コロナ感染症の拡大予防のため十分にできなかった。
６．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）
アクティブラーニングのあり方についてより一層検討していきたい。学生の理解度に応じた資料作成に努めていきたい。

令和　4　年　前　期　授業評価報告書	氏名	福井　昭史

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

「子どもと音楽表現」は前年度に初めて担当した授業科目であり、授業内容の構成、配列などカリキュラム全般についての検討を行った。それを基に授業を展開し、学生の反応や理解の程度などを概ね把握することができた。今年度は単位数が削減され授業回数が減少したことから、内容の精選が課題である。「保育と音楽表現」はピアノの技能の向上という実技を主とする授業であり、個人の技能差に対応した教材の選択と指導方法が課題である。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

「子どもと音楽表現」は前年度の授業内容の中のグループによる合奏などの創造的な活動が学生アンケートで好評だったことを生かし、演奏などの体験的な内容を加えたカリキュラムを構成し指導にあたった。ピアノの技能の向上を目標とする「保育と音楽表現」では、個人の技能差に対応した取り組みとして、初心者を対象とする教材の開発をし、それによるテキストを作成し指導にあたった。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

「子どもと音楽表現」では、内容を精選するとともに、各々の内容に適したグループによる創造的な活動を取り入れた学習を展開した。「保育と音楽表現」では、本年度作成した初心者用テキストを活用しし指導にあたった。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

「子どもと音楽表現」では内容を精選し、活動とそれによって獲得する知識や技能を明確にしたことで、学生の理解度が向上したようであり、その状況が学生アンケートに反映されていた。少ない授業回数でのカリキュラムの初年度であったことから、成果と反省をもとに来年度の授業計画の作成が課題である。ピアノの経験のない者、経験の少ない者など初心者を主に担当した「保育と音楽表現」では、本年度作成した初心者用テキストの活用が、学生の成就感、達成感につながり、学習意欲の向上と技能の向上につながったようである。今年度の成果と反省を基にテキストの改善が今後の課題である。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
保育と音楽表現	21Y	4.5	4.6	4.4	4.3	70.9分	4.4
保育実習指導Ⅰ	21Y	4.4	4.4	4.4	4.4	38.8分	4.4
教育実習（事前・事後指導１単位含む）（幼）	21Y	4.4	4.4	4.4	4.4	51.7分	4.3
子どもと音楽表現	22Y	4.3	4.4	4.4	4.4	38.0分	4.4
保育と音楽表現	22Y	4.5	4.6	4.6	4.7	84.0分	4.6
保育実習指導Ⅰ	22Y	4.4	4.4	4.4	4.4	44.6分	4.3

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
子どもと音楽表現	22Y	必修	87	83.0	23	25.8%	35	39.3%	26	29.2%	5	5.6%	0	0.0%	0	0.0%

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

「子どもと音楽表現」では、グループによる合奏などの創造的な活動を取り入れたカリキュラムを構成している。「保育と音楽表現」はピアノの実技を内容とする個々の表現を主とする授業である。そのため、授業時間以外に質問やレッスンを希望し研究室を訪れる学生も少なくない。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

次年度は、今年度の授業の成果と反省をもとに、教材の開発と指導計画の開発を行う。

令和　4　年　前　期　授業評価報告書	氏名	船勢　肇

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

・「難しい」というコメントがありながら、理解できるという評価も得られた。
学生の意欲や理解度が向上しているようだが、これがもし授業の水準を下げていることに起因するのであれば、決して喜ばしいことではない。「全体的な満足度」が向上することと、教育の質が向上することとは必ずしも直結しないことに注意しつつ、あくまで指標の一つとして受け止めながら、改善に取り組みたい。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

・短期大学にも市民教育の責任が求められていることを念頭に、くわえて保育者にとって重要な資質について、その意義を認識してもらいながら取り組む。
・文章力についても、懇切な添削をおこないながら、実践的な場面も想定して課題を検討する。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

・特に1年生については、広い視野からの講義も興味をもちやすい傾向がある。教材研究をおこないこの点の向上を模索する。
・引き続き、レポートの懇切な添削を早い段階に課して、最低限の文法への意識を伝える。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

・今年度も「難しい」と感じつつ、内容に理解を得られた点は、意図が伝わっていて良かったと思える。
・いくつか、授業への要望もあったので、それを受け止めさらに質の向上を図る。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
保育実習指導Ⅰ	21Y	4.4	4.4	4.4	4.4	38.8分	4.4
保育実習指導Ⅱ	21Y	4.4	4.3	4.4	4.4	35.9分	4.3
教育実習（事前・事後指導１単位含む）（幼）	21Y	4.4	4.4	4.4	4.4	51.7分	4.3
ゼミナール	21Y	4.4	4.4	4.4	4.4	72.0分	4.4
子どもと言葉	22Y	4.3	4.3	4.3	4.2	44.6分	4.3
保育原理	22Y	4.3	4.2	4.3	4.2	52.3分	4.2
保育実習指導Ⅰ	22Y	4.4	4.4	4.4	4.4	44.6分	4.3

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
子どもと言葉	22Y	必修	87	73.4	12	13.5%	15	16.9%	54	60.7%	7	7.9%	1	1.1%	0	0.0%
保育原理	22Y	選択	87	83.6	17	19.1%	54	60.7%	10	11.2%	8	9.0%	0	0.0%	0	0.0%

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

・アクティブラーニングについては、適宜リアクションペーパやレポートをおこなった。
・オフィスアワー以外にも学生に対応した。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

・授業への要望もあったので、それを受け止めさらに質の向上を図る。
・授業の中で、理解を確認する機会をより増加させる。
・映像資料の発掘を継続的におこなう。

令和　4　年　前　期　授業評価報告書	氏名	松尾　公則

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

ヒトと生物は、人数が少なかったので標本や実物などを一人ひとりにゆっくりと見せることができたし、講義もいい雰囲気の中で実施することができた。全体的な満足度も、4.7と4.5で高い数字が出ていた。人数が10名程度の場合はこのままでよいと思うが、増えた場合への対応は一考の余地がある。栄養士の科学は、受講態度が今一で、寝ている学生も多かった。全体的な満足度も、4.2と低く、いい雰囲気の中での講義ができなかった。座席を自由としたことも講義がうまくいかなかった要因の一つと考えられるので、次からは座席を指定したいと考えている。ゼミについては、一週間に２コマが１コマになったため、大変戸惑った。１コマに対応したゼミナールを考えていかなければならない。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

ヒトと生物は、人数が24人と増加したため標本や実物を上手に見せる工夫が必要と感じた。
栄養士の科学は、座席を指定し、いい雰囲気の中で講義を実施したい。
ゼミナールは限られた時間の中でポイントを絞って活動していきたい。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

ヒトと生物は、人数が多かったので話す時間を多少少なくして本物との触れ合いの時間を十分に取るようにした。
栄養士の科学は、配布するプリントの量を少し減らし、成績下位者への配慮をしながら講義を行った。
ゼミナールは、例年通りである。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

ヒトと生物は、全体的な満足度が4.5と4.8となり、ほぼ昨年通りの高い数字を出すことができた。選択科目なのに意欲のない学生もいるのでもっと工夫が必要かもしれない。
栄養士の科学は、全体的な満足度が、昨年の4.2から4.7へと大きく飛躍した。座席指定やプリントの工夫が良かったのかもしれない。
ゼミナールは、ほぼ予定通りに実施できたが、時間数の減少から学生との触れ合いが減っている。短い時間の中でどう接するかが課題である。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
ヒトと生物	21S	4.3	4.4	4.2	4.3	3.0分	4.5
ヒトと生物	21L	4.8	4.8	4.5	4.6	5.0分	4.8
ゼミナール	21Y	4.4	4.4	4.4	4.4		4.4
栄養士の科学	22S	4.4	4.8	4.7	4.7	37.5分	4.7

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
ヒトと生物	21S	選択必修	12	91.8	10	83.3%	1	8.3%	1	8.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
ヒトと生物	21L	選択必修	12	94.3	11	91.7%	1	8.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
栄養士の科学	22S	必修	25	82.0	10	40.0%	5	20.0%	5	20.0%	5	20.0%	0	0.0%	0	0.0%

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

講義と演習のためアクティブラーニングは実施していない。
オフィスアワーは講義内容の説明ぐらいである。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

より高い学生の満足度を目指して努力したい。「理解できた」、「おもしろかった」、「なるほどね」などの言葉が出てくるような講義を目指したい。
具体的には、限られた短い時間をどう使っていくかである。

令和　4　年　前　期　授業評価報告書	氏名	本村　弥寿子

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

授業内容の理解を進めるに、各授業のレジュメが大いに功を奏した。オンデマンド授業視聴や課題の取り組みに関して指導を大いに必要とする学生がおり、指導にかなりの時間が費やされることとなった。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

授業内容の理解を進めるレジュメの作成に努力する。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

教科書の要点を整理したレジュメ作成を心がけた。暗記すべきワードやポイントになるワードを記入させるとともに、保育や子どもの見方・考え方の重要な部分に、学生自身でチェックを入るよう指示するなどして、学生が授業のポイントを押さえられるように進めた。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

1年生の科目で90点以上獲得者の割合が例年より高く、理解力がある学生にとって学び外のある授業を提供することができたと考えられる。一方、約50%の学生がC評定であり、学習内容の定着は十分ではないことが分かる。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
保育方法論	21Y	4.4	4.4	4.3	4.3	30.4分	4.3
保育実習指導Ⅰ	21Y	4.4	4.4	4.4	4.4	38.8分	4.4
保育実習指導Ⅱ	21Y	4.4	4.3	4.4	4.4	35.9分	4.3
教育実習（事前・事後指導１単位含む）（幼）	21Y	4.4	4.4	4.4	4.4	51.7分	4.3
ゼミナール	21Y	4.7	4.7	4.4	4.6	17.1分	4.7
子どもと環境	22Y	4.4	4.3	4.4	4.2	52.0分	4.2
保育内容総論	22Y	4.4	4.4	4.4	4.2	55.4分	4.3
保育実習指導Ⅰ	22Y	4.4	4.4	4.4	4.4	44.6分	4.3

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育方法論	21Y	選択	93	70.1	2	2.2%	15	16.1%	27	29.0%	49	52.7%	0	0.0%	0	0.0%
子どもと環境	22Y	必修	87	74.0	13	14.6%	20	22.5%	16	18.0%	40	44.9%	0	0.0%	0	0.0%
保育内容総論	22Y	必修	87	71.2	8	8.9%	17	18.9%	22	24.4%	43	47.8%	0	0.0%	0	0.0%

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

保育の基本を理解する手立てとして“遊びの実践”を取り入れた。保育者の視点で遊びを振り返ることで、遊びの中の学びについての理解が深まったと思われる。オフィスアワーの時間を、週2日取り入れた。その時間に限らず、1，2年合わせて25名ほどが、就職やアルバイトなど学珠外の相談で来室た。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

講義内容の中に、遊びの実践をさらに多くとりいれ、授業内容の理解や遊びのレパートリーを増やすことにもつなげるようにする。

令和　4　年　前　期　授業評価報告書	氏名	山中　慶子

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

「子どもと表現（造形）」では、技法あそびを通して、学生の造形技術のスキルアップを目標とした。。作品掲示・鑑賞にも力を入れた。
「子どもの絵と製作（指導法）」では、幼児の造形計画や、幼児に指導する際のスキルについて実践を取り入れながら授業を行うことで、学生が保育技術を身につけることを目標とした。

学生のアンケート内容から、おおむね達成できたと考える。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

今年度から担当の「遊びの文化」では、児童文化財の持つ魅力を伝えながら、実践でのポイントや子どもと一緒に楽しむ方法などを伝えていきたい。
「子どもと造形表現（応用）」「子どもの絵と製作Ⅰ」「子どもと絵の製作Ⅱ」は選択科目となるので、興味のある学生がより深い学びを得られるような授業構成を心掛けたい。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

「子どもと造形表現（基礎）」では、幼児と楽しむ基本的な技法を製作を通して学ぶ。「子どもと造形表現（応用）」では、よりレベルの高い技法を製作を通して学ぶ。
「子どもの絵と製作Ⅰ」では、幼児造形の素材や道具について学び、「子どもの絵と製作Ⅱ」での模擬保育につなげていきたい。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

学生のアンケートから、楽しんで製作できたこと、幼児の造形について理解が深まったことが読み取れた。
今後、選択科目の受講者増加と授業内容の充実を図っていきたい。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
子どもの絵と製作(指導法)	21Y	4.5	4.6	4.5	4.5	29.0分	4.6
保育実習指導Ⅰ	21Y	4.4	4.4	4.4	4.4	38.8分	4.4
保育実習指導Ⅱ	21Y	4.4	4.3	4.4	4.4	35.9分	4.3
教育実習（事前・事後指導１単位含む）（幼）	21Y	4.4	4.4	4.4	4.4	51.7分	4.3
ゼミナール	21Y	4.5	4.5	4.5	4.4	15.0分	4.6
子どもと造形表現（基礎）	22Y	4.6	4.7	4.6	4.6	50.9分	4.6
子どもと造形表現（応用）	22Y	4.6	4.6	4.6	4.6	55.2分	4.6
遊びの文化	22Y	4.7	4.7	4.7	4.6	93.1分	4.7
保育実習指導Ⅰ	22Y	4.4	4.4	4.4	4.4	44.6分	4.3

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
子どもの絵と製作(指導法)	21Y	必修	93	81.5	13	14.0%	52	55.9%	25	26.9%	3	3.2%	0	0.0%	0	0.0%
子どもと造形表現（基礎）	22Y	必修	87	78.0	8	9.0%	40	44.9%	37	41.6%	4	4.5%	0	0.0%	0	0.0%
子どもと造形表現（応用）	22Y	選択	23	77.6	8	34.8%	12	52.2%	1	4.3%	0	0.0%	0	0.0%	2	8.7%
遊びの文化	22Y	選択	50	81.0	11	22.0%	25	50.0%	11	22.0%	3	6.0%	0	0.0%	0	0.0%

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

どの授業も、学生が主体的に取り組めるグループワークを取り入れて実施している。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

「基礎」→「応用」、「Ⅰ」→「Ⅱ」で、レベルアップができるような授業内容を構築する。
「遊びの文化」では、製作課題が追い付かない学生もいたため、課題内容を検討する。

令和　4　年　前　期　授業評価報告書	氏名	池田　光壱

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

学生による授業評価アンケートの結果について2020年度と比較したところ、「内容やレベル」4.1→4.3、「教員の教え方」4.1→4.4、「学生の学習意欲」4.0→4.2、「学生の理解度」4.0→4.2、「全体的な満足度」4.3→4.4となっており、これらに関しては改善が確認された。一方、「授業外学習時間」36.8→23.8分となっており改善が必要である。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

現在の授業方法で概ねうまくいっているが、結果的に今年度も授業時間外学習時間が23.8分と短いので、次年度は先ず学生の学習状況を把握した上で、授業外学習に活かせるような教育支援の方法を考えていきたい。授業外学習の時間は約60分を考えている。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

昨年度に今年度の改善計画として設定した上記２の「今年度の目標・改善計画」に基づいて、授業外学習で取り組むことができる課題プリント等の作成も考えていたが、前期授業期間中に適時、他の科目の課題との兼ね合いについて学生に確認したところ、本科目において課題を課すことがかえって学生の負担を大きくしてしまうことが推察されたため、昨年度と同様に、課題プリント等の課題は課さず、復習による知識の定着を重視して前回授業のおさらいから授業を開始するようにした。また、授業中には適時受講生全体に対して理解度の確認を行い、知識の定着が不十分と判断される場合には解説を複数回繰り返すことによって（あわせて理解度も確認しながら）知識の定着を図った。そして、授業外学習で復習に取り組みやすくするために、当該授業回のテーマに関する復習ポイントを授業の後半部で話すようにした。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

学生による授業評価アンケートの結果について2020年度及び2021年度と経年比較したところ、「内容やレベル」4.1→4.3→4.4、「教員の教え方」4.1→4.4→4.5、「学生の学習意欲」4.0→4.2→4.6、「学生の理解度」4.0→4.2→4.2、「全体的な満足度」4.3→4.4→4.5となっており、年度毎に改善されていることが推察される。一方で課題であった「授業外学習時間」は36.8→23.8分→33.5分となっており、昨年度より授業外学習時間が10分程度増えた。しかしながら目標として設定している学習時間は60分としているため、次年度に向けて引き続き改善が必要である。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
食品学Ⅰ（食品成分の科学）	22S	4.4	4.5	4.6	4.2	33.5分	4.5

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
食品学Ⅰ（食品成分の科学）	22S	必修	25	92.0	19	76.0%	4	16.0%	1	4.0%	1	4.0%	0	0.0%	0	0.0%

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

アクティブラーニング（以下ALと略記）は「具体的・直接的コミュニケーション」であると捉えており、手法にこだわるのではなく、学生と教員間で具体的・直接的コミュニケーションがなされているのであれば全てそれはALであると考えている。担当授業では、常に双方向型（学生⇔教員）の展開を意識して授業を実施した。そのことによって、学生の理解度などを常にチェックしながら授業の進行をができた。しかしながら、前年度同様に全ての学生に目が行き届いていなかったことが次年度に向けての改善点である。オフィスアワーは実施していない。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

授業運営の面に関しても、学生の「授業に取り組む意欲」「授業の満足度」「授業内容の理解度」はおしなべて高く、授業評価アンケートの結果も毎年改善に向かっているため、これまでの授業実践を引き続き行っていくことが重要であり次年度へ向けての目標としたい。一方、授業時間外学習時間は昨年度より10分程度増加したものの33.5分と依然として短い時間に留まっているので「60分」を基準値として設定する。また、本授業科目の学習に費やす1週間の授業外学習時間が60分以上である学生は全体の約25%であったことから、次年度は25%を超える割合を目標値とする。他方、授業評価アンケートの質問「授業の内容とレベル」において「適当ではなかった」と回答した学生が1名いたが、その理由の記述が「しっかりと自分たちのペースに合わせて授業を進めてくれたところ」となっていたので、間違えて「適当ではなかった」と回答したと推察される。

令和　4　年　前　期　授業評価報告書	氏名	磯﨑　美鈴

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

前年度は英語の新聞記事を読む授業であったが、今年度より担当者が変わり、新しくテキストを導入し授業を行なった。前年度までの授業の積み重ねが無い分、授業の内容や進め方、学生への課題内容は試行錯誤の上、学生の反応を見ながら行なった。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

（１）基本的な英文法を学び直すこと。（２）テキストのEssayや様々な英語記事などを読みながら、語彙力やReading力を強化すること。（３）Writingや英会話などで、自分の考えや意見を英語で表現できるようにすること。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

（１）テキストを用いて、中・高で学習した英文法を学び直し、語彙力やReading力をつけるため、様々な英語のEssayを読んだ。（２）Writingの課題を与えたり、授業内で英会話の練習をやってみるなど、自分の考えを英語で表現する機会を設けた。（３）インターネットを用いて、自分の興味のある英語記事について紹介する発表を行なった。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

前年度と全く異なる授業内容で他の学生からの前情報もなく、またシラバスに記載した課題も多かったため、履修した学生の数が少なかったと思われる。ほぼ毎回テキストの予習や、Writingの課題、英語の記事の発表など、少ない履修者の中で課題をこなすのは大変だったことは授業外学修時間からも推測されるが、課題の提出期限を忠実に守り、非常に真面目に取り組んでくれたと思う。前年度は実施していない定期試験を今年は実施したが、点数も非常に高かった。しかし言い換えれば、試験内容が簡単過ぎたことは否めず、後期の授業においては、授業の内容やレベルをより考慮する必要があると思われる。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
英語	22S	4.5	5.0	5.0	5.0	60.0分	4.5

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%

データがありません

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

授業後に質問を受けることもあったが、非常勤講師でオフィスが無いこともあり、メールアドレスを交換の上、課題についての質問を受けたり、発表のデータをメールで送ってもらうなどして対応した。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

テキストを用いた授業はマンネリ化しやすいことも否めないため、学生の興味関心に合わせてテキスト以外の教材の活用（英語の記事や、ビデオの視聴）なども検討したい。また、課題のWritingの添削も、より丁寧に指導できるように心がけたい。

令和　4　年　前　期　授業評価報告書	氏名	井上　靖久

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

講義科目である「解剖生理学」は人体の構造と機能に対する理解を目的としている。しかし、講義のみでは学生が苦手とする難解な科目の一つであり、特に健康の維持や疾病の成り立ち等に対する興味や理解の助けとなるように実習を行った。前々年度に比してある程度自分自身に対する客観的態度や理解は身についてきたとは思われる。しかし、科学的・説明的な根拠を伴う理解までには至らなかった。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

「解剖生理学実習」は人体の構造と機能に対する理解を、講義のみで難解であり、特に健康の維持や疾病の成り立ち等に対する理解を確かなものにするために、自分達自身を被検者に使って実習を行った。前々年度に比してある程度自分自身に対する客観的態度や理解は身につけさせる。さらにこれに、科学的・説明的な根拠を伴う理解を促すような内容を心掛けた。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

実習の最初の説明から、目的の周知は勿論のこと、特にレポートをまとめるときの準備に必要であることを実習を行う前から充分意識させたい。また、レポートの評価そのものが成績となるので、その評価基準を周知、理解させておきことが重要である。また、グループ単位で行うので実習内容のみならず、提出するレポートの内容にもグループでの相互チャックや共通理解がある方が望ましいことを伝えた。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

学生によるアンケートの結果によると、全体に4点台は維持しており、大きくは変わらなかったが、授業時間以外の学習時間が前年度より30分程減少しており、これがこの科目特有であるのか、学年の相対的なものであるのかは判然としないが、兎も角不十分な点があることは否定できないことであると考える。少なくとも実習科目についてはもう少し均一なAおよびBに属する集団になるように指導することが望ましいと考えるが、今後な課題である。単に学習内容だけではなくグループで協力することや、指導的な人物とそれに協力的なグループ、場合によっては決して協力的とは言えない人物の指導など、将来の職場での幸福度とも密接に関係する睦可石井問題ではある。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
解剖生理学実習	21S	4.0	4.1	4.4	4.0	85.3分	4.2

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
解剖生理学実習	21S	選択	23	79.1	5	21.7%	6	26.1%	6	26.1%	6	26.1%	0	0.0%	0	0.0%

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

特に実習を始める前とレポートに使うデータの処理に関してグループ内、及びグループ間でのやり取りや、説明を行う能力を身に着けるための他者への説明に関して多くの時間を割いた。また、レポートに関しては最後にワークショップ形式の発表会と質疑応答が機能していると思われる。また、レポート提出ごとに評価を返しているので、多くの学生・教員間のコミュニケーションはとれていると思われる。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

今年度に関しては、学生の中にグループ内で孤立する学生や、非協力的な学生が見られたが、周りの学生が何とかともにのりこえてくれた。必ずや将来、本人にも周りの学生にも良い経験になったこと思う。学生にも感謝しているが、来年以降はこちらから前もって働きかけを、無意識に成り立たせる工夫をして行きたいと思っている。

令和　4　年　前　期　授業評価報告書	氏名	鵜川　佐由美

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

昨年度の授業評価報告書では、個々にかける授業時間が２倍に増えたことから、より深い奏法、表現の指導までできることが課題にあがっていた。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

①基礎理論を理解し、読譜・弾き歌いができるようになる。
②保育現場の必要な生活の曲、幼児のうたの弾き歌いを表情豊かにできるようになる。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

ピアノ演奏指導・・・子どもの歌と伴奏を個々のレベルに合うアレンジを選び、奏法指導。
歌唱指導・・・どう体を使って歌うか、伴奏とうたのバランスを指導する。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

アンケート結果より、特に問題はないと思われる。昨日より、1年生の授業外学修時間が増えているのは良いことである。すべての項目に通じるが、テキストが一新されて、どのレベルの学生にも取り組みやすい内容になったこともその一因である。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
保育と音楽表現	21Y	4.4	4.5	4.1	4.3	97.5分	4.4
保育と音楽表現	22Y	4.8	4.9	4.8	4.8	86.3分	4.9

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%

データがありません

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

授業後、実習園から出された課題、または授業の課題の指番号やリズムなどを指導した。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

テキストが一新され、課題に取り組みやすくなっているが、練習の順番などを口頭では言っても焦って取り組むので、授業内で練習計画を一緒に考えながら実践する。

令和　4　年　前　期　授業評価報告書	氏名	内田　誠

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

初心者が多いので、導入部で苦手意識を持たせない事が課題

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

学生が自ら練習を楽しんで行えるよう言葉かけに工夫

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

例年通り、学生同士の演奏を聴き合う事で意欲の向上を目指す

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

ペースを下げ、丁寧なレッスンを心がけたところ、少々ポイントが改善

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
保育と音楽表現	21Y	4.8	4.8	4.8	4.9	82.5分	4.8

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%

データがありません

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

なし

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

丁寧なレッスン・対応・言葉かけを心がける

令和　4　年　前　期　授業評価報告書	氏名	浦　明美

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

今年度初めて本講座を担当しており、前年度の実績はない。前年度担当者のシラバスを参考にして今年度の目標等を設定した。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

(1)新聞等を教材として活用し、身近なものを話題に英語で情報を発信する力をつける。
(2)英語の歌を教材としてリスニング力を育てるとともに、幼児教育の現場で活用しようとする姿勢を育てる。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

(1)新聞の四コマ漫画のテーマを材料に一段落の英文を書き、設問を加えて、一講座一枚の教材を作成した。幼児教育に関連した内容のものを使用し、興味関心を持たせることにより、意欲的に英語学習に取り組むようにした。
(2)英語の歌を聴き、歌詞カードを完成することにより、聴き取る力の養成を図った。積極的に取り組むよう馴染みのある歌や子ども向けの歌を選定するようにした。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

中間評価の結果については、取組状況と習得度を反映した分布になっているものと思われる。講義後にワークシートを回収して確認し、次の講義で返却するようにしたが、総じて熱心な取組状況であった。身近な題材を用いて興味・関心を引き出す教材作成を心がけたが、習熟度に個人差もあり、難易度の設定が困難だった。授業評価アンケート結果にも教材の内容の難しさが指摘されているので、今後は語彙・文法ともにさらに取り組みやすさを意識する。習得状況については、定期テストを実施せず、範囲を設定して講義の中で復習テストの形で確認したが、実施方法についてはアンケートに指摘もあり、改善の方法を模索したい。アンケートから、英語学習を保育の現場で活用したいとの意欲が強く感じられた。その思いに応えるよう、教材作成や指導方法の改善になお一層努める所存である。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
英語	21Y	3.7	3.7	3.9	3.7	28.3分	3.6

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%

データがありません

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

アクティブラーニングについては、前期の講義では実施していない。講義後、復習テストの試験勉強のしかたについて質問があり、講義で使用した教材中の重要語句を中心に書いて覚えるよう指導した。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

(1)教材作成について、可能な限り幼児教育に関連したテーマを選定する。難易度についても、習熟度の実態と個人差を考慮し、全体のバランスを工夫する。
(2)密にならないことを意識しながら、ペアワークやグループワークなど、前期では実施を控えた学習形態を取り入れる。

令和　4　年　前　期　授業評価報告書	氏名	大野　陽子

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

コロナ禍において、なかなか通常通りの授業ができない中で、やむを得ず欠席した学生に対するフォローや学生全体のモチベーションや意欲の向上を目指すことが、課題の一つにあがっていた。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

①基礎理論を理解し、読譜できるようになる。
②保育現場での必要な曲（生活の歌）、幼児の弾き歌いを習得する。
③簡易伴奏法、コード奏法の習得
④表現豊かに明るく楽しく歌えるようになる。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

幼児のための「生活の歌」の中には、学生があまり知らない曲も多く、まず初めに講師の伴奏のもとで一緒に歌い、音源や動画なども活用して曲の雰囲気やイメージをつかませた。その上で、学生一人一人の進度に応じてピアノの実技指導を行い、細かいアドバイスを心がけた。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

アンケートにおいて全体的には特に問題ないと思うが、「意欲」や「理解度」には個人差があり、中には目標にたどりつけない学生もいた。様々な環境や状況に理解や配慮をしつつ、「学びの質を上げること」を課題とし、技術面だけではなく、精神的な面においても寄り添った指導を心がけていきたいと思う。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
保育と音楽表現	21Y	4.7	4.6	4.6	4.7	70.0分	4.6
保育と音楽表現	22Y	4.6	4.6	4.5	4.5	112.5分	4.5

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%

データがありません

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

授業後、楽譜の読み方（♯・♭）について質問があり、いろいろな曲の例を出してピアノの鍵盤で音を確認しながら説明した。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

これまで学んだことを基に、後期はさらに応用・実践へと入っていく。技術の向上はもちろんのこと、「音を楽しむ」「音楽を誰かと共有する」喜びを、学生に沢山味わってほしい。そして、自分なりの音、表現を見つけていけるよう、声かけや一人一人に応じたアドバイスをしていきたい。

令和　4　年　前　期　授業評価報告書	氏名	尾崎　好子

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

前回の授業評価報告書では、積極的な受講生は気軽に質問をしてきたが、今回のアンケートで難しいと感じた2名のように難しいと感じた部分を質問に来れない受講生まで対応できていなかったと反省し、次年度は控え目な受講生への対応を念頭に置き、全員にしっかりと理解して頂き楽しく診療報酬明細書について学んで頂き、医療機関で働きたいと思えるような授業を展開していけるよう、受講生ひとりひとりに声をかけていきたいことを課題としていた。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

(1)一人ひとりに目を配り、理解度を確認しながら丁寧な講義を心がける。
(2)受講生全員が資格取得できるよう、診療報酬明細書が自分の力で書けるようになるよう、講義資料を見やすく改良するなど工夫をした。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

(1)テキストに沿って診療報酬明細書の書き方について説明し、練習問題を各自で解き、解説を行う形式で授業を進める。一人ひとりの答案を確認し、受講生から頂いた質問は全体にフィードバックし、その都度説明を行った。
(2)受講生が自分で考え自分で課題と向き合う時間を取り、解説の時間には質問を受け付ける時間を設けた。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

今回の受講生も意欲的に講義に参加される方ばかりでしたので、理解度も高く、成績も全員S評価で終える事ができとてもよかったように思う。前回はオンライン講義で直接会うことが出来なかった学生さん達も、対面講義で画面越しではなく直接質問をしたり、相談をしに来ることができ、アンケートでも好意的に書いて下さった方ばかりでした。
また次回も今回のような充実した講義を実施できればいいと思う。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
医療事務実技	21L	4.7	4.8	4.8	4.4	58.3分	4.7

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
医療事務実技	21L	選択	18	96.7	18	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

全体の理解度把握のため質問の時間を度々取り、その都度受講生全員に共通理解する時間を設けた。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

今回は学ぶ意欲の高い学生さんばかりでしたので、次回も今回同様に充実した講義となるよう資料研究をし全員が診療報酬明細書が書けるようになるための準備をする。

令和　4　年　前　期　授業評価報告書	氏名	金　英泰

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

本科目の授業・教育目標は、アンケートの結果および授業成績からも、おおむね到達していると思われる。小テストなどを取り入れ、各自の習得レベルを確認しながら、授業を展開する。
ハングルの教科書の内容を各自で声を出して読ませている。一方的に教員の発音を聴くのではなく、学生自らも実際に発音し、教員のアドバイスをその都度、受けている。このような参加型学びが効果を上げていると思われる。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

①授業中に小テストやグループ学習等を導入し、主体的な学びを取り入れる。
②文化体験として、韓国の料理作りを体験する。文化祭等で韓国料理を創作・発表など参加型体験を行う。
③学生の参加型授業をさらに充実させ、ひとりひとりにきめ細やかな指導を行う。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

語学の授業であることから、読み、書き、話す、聞く、の基本的なリテラシーに重点を置きながらも、楽しく、親しみやすいように、韓国音楽、映画、伝統文化などもとりいれる。また、学生が主体的に調べて発表する形式もとり入れていく。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

学生による授業評価によるアンケートの平均では、内容やレベル4.3、教員の教え方4.5、学生の学習意欲4.5、学生の理解度4.1、全体的な満足度4.4であった。
語学においては、各人の関心度によって、科目の到達目標に対する到達度が違っている。授業の目標に向かって、学生全員が努力できるような教育環境を整える。今後も、導入段階から、各人の理解度を確認しながら、授業を展開していく。授業の具体的工夫としては、テキストの内容について十分に理解できるよう、教員が大きな声を出しながら学生に読み聞かせている。さらに、すぐに学生に復唱させ、正しいハングルの発音ができるまで確認している。また、その都度、大きな文字を板書し、ハングルの発音構造を説明している。今後もこのようにきめ細やかに授業を行っていく。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
韓国語	22S	3.9	4.4	4.5	3.9	17.4分	4.3
韓国語	22L	4.6	4.6	4.5	4.3	12.9分	4.5

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
データがありません																

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

アクティブラーニングとしては、一方的に教えるのではなく、学生の参加型の授業を展開している。具体的には、韓国語の発声を自ら行わせ、正確にできるまで、練習をさせている。また、インターネットを使った教員とのやり取り、課題提出を必須としている。オフィスアワーとしては、毎回の授業後に設定している。授業について、学生から質問等があればその場で詳しく説明し、一緒に演習している。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

①すべての学生が理解できるように、基本的な事項を重点的に授業に取り入れる。
②初期段階から、授業中に小テストを導入する。
③グループ学習等を導入し、主体的な学びを取り入れる、課題発表など。
④文化体験として、韓国の料理作りなど、参加型を体験する。（文化祭等で韓国料理を創作・発表）

令和　4　年　前　期　授業評価報告書	氏名	小林　寿人

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

今年度より当科目担当

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

テーマ（課題）に対し自分で思考し意見を相手に伝えられる学生になってもらう

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

（１）毎回、自分の気になった記事の感想などを書いた付箋紙付の新聞を班内で回し読み、いろいろな考え方（記事のとらえ方）があることを理解してもらった。
（２）自己表現の方法として「自分新聞」を作成するワークショップも実施。（１）と同様に思考の多様性について学ぶ機会を設けた。
（３）事業者（西日本シティ銀行担当者）に仕事について話してもらい今後の就職活動の参考にしてもらうとともに同行が制作したＳＤＧｓを学べるカードゲームを使ったワークショップを実施し、ＳＤＧｓへの意識を高めた。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

学生による授業評価アンケートの結果は特に問題は無かった。評価については積極的にグループワークに取り組む学生とそうでない学生がいた。消極的な学生をいかにして取り込むかが来年に向けての課題といえる。成果については①普段、新聞を読む機会がない学生が新聞を読むことでニュース（時事問題）に接触することができた②新聞記事の構造を教えることで学生の文章力と読解力の向上に貢献できた③「自己PR新聞」を作ることにより学生自身の「強み」「苦手なこと」を再認識してもらうことができた。以上の3点が今期の成果と考える。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
時事研究	22L	4.7	4.7	4.7	4.8	15.0分	4.8

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
時事研究	22L	必修	20	76.0	2	10.0%	6	30.0%	7	35.0%	5	25.0%	0	0.0%	0	0.0%

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

講義内では①新聞を読んで気になった記事とその理由・感想を班内及び班ごとにでプレゼンするワークショップ②文書（記事）を読んでその要旨なるワード（見出し）をつけてもらうワークショップ③新聞形式で自己PRをするワークショップを実施、新聞記事の書き方を説明しながら「相手に伝わる」表現についても指導した。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

（１）最初に目標となる到達点を教え、その過程を説明する
（２）学ぶ意識が低い学生についてはグループワークを通じ、他の学生も交えてフォローしていく

令和　4　年　前　期　授業評価報告書	氏名	管原　正志

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

本年度より採用。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

公衆衛生学は、個人及び公衆の健康の保持と増進を目指す総合科学であり、次のことを修得させる。①公衆衛生学の知識を日常生活の中で活用できる。②身近な生活環境と健康、疾病予防などの基礎的な知識を学び、考える視点を養う。③行政の仕組みとして老齢化・年金・福祉などの制度を理解する。④学校保健に関する実務を理解し実践や説明ができる。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

講義では、ワーク、テキスト、配布プリント、視聴覚教材（ICT活用等）を使用し、毎授業ごとに課題を課した。
コロナ禍での講義であることから、対面授業及び遠隔授業を併用した方法で実施した。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

学生による授業評価アンケートの結果、授業内容、教え方に若干の課題があり、また、予習・復習をが全く取らない学生が50～60%と比較的多く、次年度の課題である。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
公衆衛生学	21S	3.8	3.9	3.8	3.8	17.6分	3.8
公衆衛生学	21L	4.2	4.1	3.9	3.8	24.4分	4.1

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
公衆衛生学	21S	必修	23	76.3	1	4.3%	8	34.8%	10	43.5%	4	17.4%	0	0.0%	0	0.0%
公衆衛生学	21L	選択	17	77.6	0	0.0%	7	41.2%	8	47.1%	2	11.8%	0	0.0%	0	0.0%

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

実施なし

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

①受講者自身の興味・関心を持つ授業内容とする工夫が必要である。
②授業の理解度向上のためには、予習・復習が必要であり取り組みたい。

令和　4　年　前　期　授業評価報告書	氏名	高柳　篤江

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

前年度はどの学生も徐々にスピーチに慣れ、前向きに課題に取りくむことができた。前年度の課題としてはマスク生活の中でもコミュニケーションを取れる力を、ということであった。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

コロナ生活のため発声練習や集団討論ができない分、他の項目（話の組み立て方など）を丁寧に行う。毎回スピーチのテーマを授業の最初に伝えてゆとりをもって授業を受けられるようにした。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

スピーチの後のアドバイスは当人だけでなく、クラス全員にピンとくるよう工夫した。ミニレポートへのアドバイスは過去のスピーチと比べて成長した点をできるだけ書いて返却した。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

今年度は非常に熱心な学生が多く、おかげで楽しく授業を進めることができた。学生は真面目に取り組み、アンケートでも示されたように基本的な話し方を体得した。課題としては、前の授業が体育の為、着替えなどに時間を取られるようで、開始時間が10分ほど遅れることが多かった。全員揃うのを待つ間、有意義な話をするように努めたい。また、人前が苦痛な学生が後半欠席したのが気になった。なんとか取り込みたい。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
スピーチコミュニケーション	22L	4.9	5.0	4.9	4.9	24.0分	4.9

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
スピーチコミュニケーション	22L	必修	20	92.8	16	80.0%	4	20.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

ミニレポートに質問が来たので、回答するとともに、後日対面でも話題にして納得できたか確認した。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

1．授業の項目をしぼり、今年度のように繰り返しを多くして身につけるようにする。話法を中心に授業を進める。　2．人前が苦手な学生の負担を軽くするよう、メモを持って話すよう促してみる。
3．ミニレポートへのアドバイスは具体的にして、次回のスピーチで小さくてもよいので達成感を得られるように工夫する。

令和　4　年　前　期　授業評価報告書	氏名	寺谷　陽子

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

個々人、自分に合った練習方法を身につけ少しずつ上達している様子は見られた。保育者としての意識を持ち、ただピアノを弾くのではなく、表情豊かに演奏し子ども達と共有できる心を持つ。その為に、根気強く練習に取り組める姿勢を身につけることが課題にあがっていた。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

(1)保育者としての意識を常に持たせる。身なり、挨拶、自発的に出来るようにさせる。
(2)前回の課題、本時までの取り組みを学生と話し、本時の課題を共有し課題達成を実現させる。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

(1)演奏する時は常に現場をイメージ、子ども達の前で弾いていることを想定する。ピアノを弾くことだけに集中するのではなく、子どものお手本になるような表情で、周りを見渡す余裕を持たせる意識づくりをさせた。
(2)授業時に日々の学生生活の課題も含め、学生の状況、気持ちを話せる雰囲気づくりを心掛けた。個々人の様子をみながら、練習方法を提示し少しでも出来たという達成感を味合わせるように取り組んだ。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

本時の課題を把握し言葉に出来る学生もおり、今何をすべきか課題に合った練習方法を取得し積極的に進める学生もいた。まだピアノを弾くことに苦手意識をもつ学生はピアノに向かう時間の確保、何をすべきかも把握出来ずに、不安だけが先走っている様子が伺えた。まずはこの部分が出来たなど、小さな課題を達成しやる気につなげていきたい。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
保育と音楽表現	21Y	4.7	4.6	4.6	4.7	100.0分	4.6
保育と音楽表現	22Y	4.4	4.6	4.4	4.4	78.8分	4.4

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%

データがありません

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

課題を達成に向けて、学生同士でのコミュニケーションが見られ、自発的に今後の取り組みについて話し合いがなされ、意欲が感じられた。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

まずは自分の課題に気づくこと。小さな課題で達成感を得る。その積み重ねが出来るような声掛け、練習方法を提示する。保育者としての意識を常に持たせるよう身なり、言葉遣いなど、レッスン中でも気を付けながら、自発的に動きやすいような雰囲気づくりも心掛けていきたい。

令和　4　年　前　期　授業評価報告書	氏名	富永　君代

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

・最後の授業が「コミュニケーション体験」という明確な目標を設定することで学生の学習意欲に繋がった
・小テストの回数を増やすことで学生自身の技術向上のへの振り返りができた

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

・手話での会話ができるように学生同士のコミュニケーション体験の機会を増やし、またろうあ者とのコミュニケーション体験を想定して窓口業務などの模擬練習をする
・講義を通して聞こえない事、ろう者の生活がイメージできるように具体的な話をする
・考え工夫する力をつけるため、テーマごとのグループワークをする

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

・毎回学生同士で手話を使って話すことでコミュニケーションの楽しさを実感できるようにした
・特別講義では、具体的にろうあ者の生活を知ることが出来た
・「日常生活でろうあ者が困ること」「災害時にろうあ者が困ること」などテーマを決めてグループワークをした
・手話は「目でみる言葉」なので実技の指導時に学生が見やすい様に講師が移動しながら指導した

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

・授業評価アンケートに多くの学生が「ろうあ者と実際に話が出来て良かった」と記入しており貴重な体験になったようだ。また通じる喜び、通じないもどかしさを感じたことでコミュニケーションを工夫することに繋がったと思う。
・グループワークは学生がより積極的に意見をだせる場だが、学生の姿勢によりグループ毎の意識の差が大きいので講師のきめ細かい指導、援助が必要だと感じた。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
手話講座	22L	4.7	4.7	4.6	4.5	36.0分	4.6

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
手話講座	22L	必修	20	74.8	0	0.0%	9	45.0%	4	20.0%	7	35.0%	0	0.0%	0	0.0%

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

・講師の問いかけが弱かったのか学生の質問がなく、予習についても発表する学生がほぼ決まっていた。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

・単語レベルの習得にとどまらず、それを駆使してコミュニケーションを楽しむことが出来るよう会話の時間を増やしやり方にも工夫をする必要がある
・ろうあ者とほとんど会った事のない多くの学生にとって、特別講義・コミュニケーション体験は貴重な経験となるので今後もろうあ協会の協力を得て継続する
・消極的な学生には声かけなどを気がけ、質問など出しやすい様に工夫をする

令和　4　年　前　期　授業評価報告書	氏名	中嶋　浜子

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

初心者用テキストの利用により、導入はスムーズであった。テキスト後半から終了に掛け、練習不足により伸び悩んだ学生もいたため、復習の重要性を伝え、習慣化を促してきた。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

理論の理解と読譜力の向上を目標とし、譜面から読み取ったことを実際に声に出してみたり、模範演奏を聴いたりすることで、楽曲の特徴や持ち味を生かした演奏表現につなげさせる。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

保育現場に必要とさせる生活の歌、季節や行事の歌をより多くの演習課題として取り上げた。指導にあたっては留意すべき点を挙げ対応を考えさせた。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

学生自身の満足度は高いが、まだまだ実際現場で通用するとは考えにくい。しっかり基礎となる理論の理解と技能習得の練習を積み重ねさせる必要がある。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
保育と音楽表現	21Y	4.0	3.8	4.1	4.0	140.0分	4.2
保育と音楽表現	22Y	4.6	4.7	4.8	4.8	86.7分	4.7

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%

データがありません

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

昼休みや空き時間の直接対応に限らず、電話による時間外の対応にも応じた。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

今までに得た知識技能や学生自身の発想を生かすことで、子ども達が心から喜び楽しむような保育実践方法を創意工夫させる。

令和　4　年　前　期　授業評価報告書	氏名	本多　直子

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

今年度からの授業担当であり、保育の学生への講義は初めてであったため、保育の現場で役立つような内容となるように心がけた。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

（1）保育に必要な子どもの保健の知識が修得できる。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

（1）シラバスの内容に沿って、保育の現場で必要な知識を選定したテキストをもとに教授し、テキストでは不足部分の知識を補い、授業を行った。
（2）学生が主体的に考えたり調べたりできる内容を授業の一部に取り入れるように授業構成を行った。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

成績分布の結果から、授業内容は特に問題ないと考える。アンケートから一部の学生は、授業内容を難しく感じたようだが、授業外の学習時間が全くない学生が３～４割で学生の学習不足がこの問題の一因だと考えられる。授業の構成に、授業前後の学習が必要となる課題を取り入れる等の検討が必要である。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
子どもの保健	21Y	4.2	4.3	4.1	4.1	40.7分	4.0

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
子どもの保健	21Y	選択	92	80.7	6	6.5%	55	59.8%	25	27.2%	6	6.5%	0	0.0%	0	0.0%

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

学生個人での調べ学習を授業中に実施したが、インターネット環境（WIFI）が悪く、不満を漏らす学生もいた。グーグルフォームで毎回の講義の質問を受け、次回の講義で学生の質問に対する解説を行った。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

（1）学生のアクティブラーニングにつながるような授業の構成を検討し、積極的な学習ができる環境を提供する。
（2）テスト範囲や学習方法について講義の早期から助言をする。

令和　4　年　前　期　授業評価報告書	氏名	宮﨑　美保

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

実技科目に対して意欲の低い学生やコミュニケーションをとるのが苦手な学生をいかに活動的に授業に取り組ませるかが課題である。学生自ら考え動き楽しみながら向上していき、課題習得するために授業内容をさらに工夫する。講義は、実体験やわかりやすく興味を持つ内容を取り入れて学習意欲向上を目指す。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

(1)実技科目に対して意欲の低い学生やコミュニケーションをとるのが苦手な学生の対応を考える。
(2)さらに学生自ら考え動き楽しみながら向上していけるように課題工夫してを授業を行う。
(3)講義は、実体験やわかりやすく興味を持つ内容を取り入れて学習意欲向上を目指す。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

（１）実技科目活動内容をわかりやすく習得しやすくするために段階的項目をせっていした。さらに目標を各グループであげて、授業の終わりに自己評価するようにさせた。
（２）活動意欲が沸くような課題を出したり、特に苦手な実技科目に対して意欲の低い学生には、動きの分析をしてわかりやすい説明・実技指導をしながら、一緒に楽しみながら課題克服を目指した。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

今年度は、自発的に楽しみながら取り組む学生が多く、学習記録で目標を決めさせることでより活動意欲高まり、授業終わりに活動の振り返りをし自己反省をすることで次の授業の意欲につながった。学習記録をチェックすることで上手くコミュニケーションが取れないで困っている学生などに気づくことができ対応できた。コメントを書くことでより良いアドバイスをすることもできた。実技を見せながら説明したり、動きの分析をすることによりスムーズに課題克服し、できると自信につながった。グループ活動を増やした結果、学生同士のコミュニケーションも上手にとることができ互いに教え合いながら習得をしていく姿も見ら自ら工夫して活動できるようになった。学生ともさらにコミュニケーションが取れるようになった。後期でも実技・体育講義しっかりと学習記録を書かせ確認していきたい。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
生涯スポーツ	22S	4.6	5.0	5.0	5.0	12.7分	4.7
生涯スポーツ	22L	4.9	5.0	4.8	4.9	6.0分	4.7

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%

データがありません

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

授業後にコミュニケーションが上手く取れないと相談があり、一緒に対応を考え前期の終わり頃にはみんなと楽しく授業を受けれるようになった。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

(1)実技科目に対して意欲の低い学生やコミュニケーションをとるのが苦手な学生の対応を考える。
(2)さらに学生自ら考え動き楽しみながら向上していけるように課題工夫してを授業を行う。
(3)講義は、実体験やわかりやすく興味を持つ内容を取り入れて学習意欲向上を目指す。

令和　4　年　前　期　授業評価報告書	氏名	宮﨑　洋子

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

授業の形態が変わり、1回の授業時間が長くなったが、隔週になり、授業時間の中で学んだ事・経験した事が時間の経過とともに薄らいでいき、次の授業では、前回の復習や再度の学びの時間に多くのウエイトを占めてしまった。授業時間の中で、特に付箋を貼ったり、印を付けたり、繰り返し口頭で復唱し、定着出来るように進めていった。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

一度にたくさんの課題を処理していくのではなく、学生個人がそれぞれの今までの行動を見据えて、段階的に取り組みやすい内容から少しずつ難易度を上げていき、段々と慣れていくようにしたい。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

一年生で、未経験者にとって、授業の内容は非日常的なものであるので、取り組むにあたってはハードルが高い。同じ課題を与えられてもクリアするには難しいものがある。まずは、自学のやり方を説明し覚えなくてはいけない様々な問題をレベル別に実際に体験しながら、反復を繰り返す。また、経験者であればあるほど物足りなさを感じないようにコミュニケーションを取りながら可能な限り様々な曲に取り組み前に進めていく。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

二年生において、アンケートの中で他の科目に比べて全体的な満足度が少し低い結果になっているのは、授業そのものが大変な部分が多かったのではないかと思われる。最後の授業で連弾があるので、そこに向けて最大の力を発揮できるともっと満足度も上がるのではないかと思う。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
保育と音楽表現	21Y	4.5	4.5	4.8	4.5	101.3分	4.5
保育と音楽表現	22Y	4.3	4.7	4.1	4.3	72.9分	3.7

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%

データがありません

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

授業が終わって、質問を受けることもありましたが、LINEにての確認もあり、もう一度楽譜やテキストを見直して復習するように助言した。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

限られた時間の中でのロスタイムがないように授業の準備、学生のローテーションのやり方を考えていきたい。

令和　4　年　前　期　授業評価報告書	氏名	村川　千佳

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

1. ピアノの試験に向けての指導と併せて、実際保育の現場で活用できるような内容についても伝えるよう努めた。
2. 就職してから、保育現場で短大で取得したことを自信をもって活用出来るようピアノ・歌唱ともに実力の向上を目指した。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

音楽の基礎力の育成と共に豊かな音楽的表現についても指導する。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

1. ピアノ・歌唱共に技術の向上及び音楽的表現の充実
2. 歌唱において、一般的な声楽というよりも保育の現場で園児に伝わる歌い方(発声法)表現方法なども具体的に指導。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

ピアノにおいて、ほぼ初心者の状態の学生がほとんどであるが、全員がとても熱心にレッスンに取り組む姿勢が感じられた。今後も初心者のピアノの力を卒業までにいくらでも実践で活用できるレベルになるよう有効な指導に努めたい。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
保育と音楽表現	21Y	4.4	4.4	4.5	4.3	116.3分	4.3
保育と音楽表現	22Y	4.6	4.9	4.8	4.9	97.5分	4.8

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%

データがありません

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

授業後や空き時間に質問に訪れる学生については、極力時間を提供した。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

1. 音楽の基礎について、学生が理解しやすい指導を！
2. 表現することに慣れ、その喜びを体感して現場で活かしてもらえるよう指導したい。
3. 実務に活用できる実用的な音楽力、また表現力を身につけられるよう指導したい。

令和　4　年　前　期　授業評価報告書	氏名	村田　実智代

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

基本的な楽典の理解
テクニックの向上
弾き歌いへの興味

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

個人に合った教材とスピードに配慮する
コード奏法との関連

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

楽典の基礎強化
練習方法の徹底
コードを自ら工夫する

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

指使いを自ら決め、効率的な練習に導く
学習意欲に沿った教材とスピード

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
保育と音楽表現	21Y	4.1	3.8	4.3	4.0	116.3分	3.9
保育と音楽表現	22Y	4.8	4.8	4.8	4.8	130.0分	4.8

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%

データがありません

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

学生のモチベーションへの配慮

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

学生の実力、モチベーションに合わせる
弾き歌いへの興味へ導く

令和　4　年　前　期　授業評価報告書	氏名	森藤　香奈子

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

今年度からの担当のため、前年度の情報はない。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

保育士に必要な子どもの保健の知識が修得できる。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

・テキストの内容と近年の母子保健施策で保育士が現場の知識として必要な内容を加味し、作成したシラバスに沿って授業を行った。
・テキストのデータより最新のものがあれば、各省庁から情報収集し、提示した。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

成績および授業評価の分布より、概ね妥当な内容で授業ができたと考える。授業中の様子から、意欲的に取り組む学生と興味を示さない学生の差が大きく、学生の興味が引き出せる内容の工夫が必要だと感じた。もう少し、インターネットの環境が整えば、学習教材の工夫もしやすい。
今年度からの担当で、長崎女子短大の出席管理、成績評価の方法、この授業で何を求めているのかについて、もう少し打ち合わせが必要であった。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
子どもの保健	21Y	4.2	4.3	4.1	4.1	40.7分	4.0

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
子どもの保健	21Y	選択	92	80.7	6	6.5%	55	59.8%	25	27.2%	6	6.5%	0	0.0%	0	0.0%

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

インターネット環境がよくなく、学生の出席管理や授業中に見せたい動画など、活用できなかった。
授業の感想や学生の考え、質問などは出席管理と同時にレスポンス入力をしてもらい、次の授業時間前にフィードバックを行った。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

1．学生の学習への関心を高める教材の工夫を行う
2．試験および評価方法の検討を行う

令和　4　年　前　期　授業評価報告書	氏名	山浦　直子

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

昨年度の授業評価報告書では“楽しく学ぶこと”を忘れずに授業を進めることを課題としていた。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

（1）基本的なことを確認することで、二週間の自習の内容がより充実するように導く。
（2）学生のモチベーションが持続できるように工夫する。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

（1）「コード奏法」との関連を基本に応用できるように学ぶことを自覚させる。
（2）コロナの影響で「歌う」ことが制限される中で「歌うこと」の大切さを忘れないように導く。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

前期、学生一人一人とかなり良好なコミュニケーションが取れたと感じることが出来た。しかし、2名の学生が試験本番で緊張もあったとはいえ、基本的な要素の弱さが目立った結果となった。私自身、少し甘くなっていたことを反省している。結果を出せるように課題の出し方、そして身体のリラックスを徹底する。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
保育と音楽表現	22Y	4.8	4.8	4.6	4.7	72.0分	4.5

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%

データがありません

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

実施していない。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

「コード奏法」との関連付けにより、伴奏付けを伸び伸びと行うことができるように導く。常に、語りかける音楽、笑顔で取り組むことを目指す。

令和　4　年　前　期　授業評価報告書	氏名	吉井　学

１．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

前年度の成果は一昨年度に比して７５％の学生が意欲が出たとの回答を得た。授業の満足度は５５％程度であった。成績分布の変化ではＳやＡ評価の学生が増加していた。しかし、48%の学生がC評価であったので課題として、なるべくBおよびAへの評価者が多くなるように理解力を上げる必要がある。

２．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

生化学の解説に使用される専門用語の解説を丁寧に実施し、学生の理解度を向上させる。そのために教科書の講義前の読み込みおよび理解できない文言の抽出と質問頻度を上げる。　学生が質問したいときにいつでも対応できるようにする。また、ヒトの体のメカニズムについて興味を持たせるためのQ&Aを増やす。

３．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

出席表に講義中の判らなかった部分や質問事項を記載した上で提出させ、次回の講義にて最初に解説をした。授業開始前に質問の時間を設けた。質問に答えながら当日の講義内容へ連結させていった。さらに、自宅での学習中の質問についてはメールアドレスを公開し常に学生からの質問を受け付ける体制を整えた。

４．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

今年度の成績評価を昨年度と比較するとS評価が４名（18.2%）から１名（4.3%）に減少した。A評価も４名（18.2%）から２名（8.7%）に減少した。B評価mも４名（18.2%）から１名（4.3%）に減少した。C評価は１０名（43.5%）から１９名（82.6%）に激増した。また、授業に参加しない学生も増加した。昨年度は全員が授業を真面目に受講し、ノートの取り、質問が増加していたが、今年度は授業中に別のことをする学生、ノートをとらない学生、眠る学生が増加した。学生の授業評価アンケートの結果では内容やレベルが0.4 低下して３．２、教員の教え方が0.8 低下して３．０となり、学生の学習意欲も0.5 低下して３．６、学生の理解度は0.6 低下して２.7である。授業外の学修時間は４０分短縮されて４４分程度、満足度は0.8 低下して２．９である。講義の内容は前年度までとなにも変化していないし、質問にも丁寧に回答しているつもりである。課題としてはまず、①学生に興味をもたせることを考え、実施する必要がある。②生化学は化学ではないことを理解してもらう。③健康と生化学は表裏一体であることを理解してもらう。ことである。この期の２年生は今年度後期に生化学実験を実施するので、生化学Ⅰ及びⅡの復習を実施する。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
生化学Ⅱ	21S	3.2	3.0	3.6	2.7	44.2分	2.9

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
生化学Ⅱ	21S	選択	23	64.7	1	4.3%	2	8.7%	1	4.3%	19	82.6%	0	0.0%	0	0.0%

５．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

教科書で使用される専門用語を解説した。毎回の授業での出席票に質問や希望・クレーム等を記載してもらい、次回の授業初頭に回答する。メールによる質疑は常に受信し、回答を繰り返した。試験前には学習まとめのための補習を実施した。

６．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

教科書で使用される専門用語を丁寧に解説する。毎回の授業での質疑応答を増やす。メールによる質疑は常に受信し、回答を繰り返す。学習まとめの配布

令和　4　年　前　期　授業評価報告書	氏名	吉田　高文

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

前年度の学生による授業評価アンケートの結果は全体的な満足度は4.0であった。ただし、授業外学習時間が前年度の45分から37.5分と減少しているため、この点の改善を課題とした。また、高校で商業を学んだ学生と普通科の学生とでは、学習開始時点ですでに差がついている。そこで、教材をより一層工夫しながら、既習者と初習者のそれぞれに満足できるような授業を目指すこととした。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

科目名「簿記会計学１」では、前年度に引き続き以下の4つの目標を掲げた。
1. 複式簿記の構造を理解する。
2. 簡単な財務諸表を作成できる。
3. 商業簿記と工業簿記の違いを理解する。
4. 日本商工会議所簿記検定試験3級の取得を目指す。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

科目名「簿記会計学１」では、日商簿記検定試験3級の内容理解を進める授業を行った。また、2級の内容である工業簿記や原価計算の基礎についても説明した。具体的な活動内容は以下の通りである。まず説明プリントと練習問題のプリントを配布し、必要なつど電卓を貸し出して計算させながら授業を進めた。練習問題のプリントは毎授業後回収し、理解度を確認後、翌週に一部添削して返却した。さらに、欠席した学生には、次週にプリントを配布して理解度を確認させながら授業を進めた。ここまでは前年度とほぼ同内容であったが、今年度はマイクロラーニング教材として「10分でわかる

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

今年度の全体的な満足度は4.6で前年度から改善した。また、授業外学修時間も51.0分で、前年度に比べて10分以上増加した。成績分布はSを取ることのできる学生が増加した。真面目に受講しているという印象であった。
　次年度の課題は、「学生の理解度」を高めることである。高校で簿記を学習した学生と普通科で簿記を学習してこなかった学生とでは、理解度に差が生じるので、まず基本的内容を十分に理解できるよう反復学習をすすめ、同時に中級レベル（日商検定試験）の内容も意識した授業展開を行っていく。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
簿記会計学１	22L	4.5	4.6	4.7	4.4	51.0分	4.6

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
簿記会計学１	22L	必修	20	92.1	15	75.0%	3	15.0%	1	5.0%	1	5.0%	0	0.0%	0	0.0%

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

前年度に引き続き、科目名「簿記会計学Ⅰ」では、教員による一方向的な講義ではなく、学生に電卓で計算しながら問題を解かせるように進めた。
　オフィスアワーについては、規程どおり設けて、授業終了後の教室や非常勤講師控室で学生からの質問を受け付けた。とくに期末試験直前の質問が多かった。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

科目名「簿記会計学１」では、以下の3点を次年度の目標とする。
（1）今年度に引き続き、科目名「簿記会計学Ⅰ」では日本商工会議所簿記検定試験3級の受検を念頭に置きながら授業を進めていく。
（2）高校で商業を学んだ学生と普通科の学生とでは、学習開始時点ですでに差がついている。そこで、教材をより一層工夫しながら、既習者と初習者のそれぞれに満足できるような授業を目指す。
（3）マイクロラーニング教材「10分でわかる

令和　4　年　前　期　授業評価報告書	氏名	吉田　智子

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

昨年度の授業評価報告書では、演奏力を少しでも向上させる練習方法を伝える、そしてコミュニケーションをとりながら練習の大切さを伝えることが課題に挙がっていた。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

（１）演奏を高めるために具体的な練習方法や練習の大切さを伝える。（２）コミュニケーションをとりながら練習の大切さを伝える。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

（１）演奏が難しい箇所は具体的な練習方法をその場で練習させることを心がけた。（２）日々の練習の大切さを伝えることを心がけた。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

今年度もコロナ禍の中、マスク着用でのレッスンだったので、歌の指導が思うように出来なかったと反省している。授業アンケートでは、昨年度に比べたら評価が低いのでもう少し指導法を考える必要があると思った。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
保育と音楽表現	21Y	4.2	4.3	4.4	4.4	81.0分	4.1
保育と音楽表現	22Y	4.5	4.4	4.6	4.5	86.3分	4.4

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%

データがありません

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

授業後、質問がある場合はその場でできる限り対応している。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

（１）現場ですぐに使えるような演奏力をつけるため具体的な練習方法を伝える。（２）練習するモチベーションを継続させるために練習回数などを具体的に提示してみる。